

令和7年度 掛川市・袋井市病院企業団立中東遠総合医療センター

診療科別目標発表会

令和7年7月8日（火）17:30～19:00 大会議室

<診療科発表順>

- | | | | |
|-------------|---------|-------------|--------------|
| ① 総合内科 | ⑦ 外科 | ⑬ 皮膚科・皮膚腫瘍科 | ⑲ リハビリテーション科 |
| ② 糖尿病・内分泌内科 | ⑧ 整形外科 | ⑭ 眼科 | ⑳ 病理診断科 |
| ③ 腎臓内科 | ⑨ 脳神経外科 | ⑮ 耳鼻いんこう科 | ㉑ 歯科口腔外科 |
| ④ 脳神経内科 | ⑩ 小児科 | ⑯ 放射線診断科 | ㉒ 救急科 |
| ⑤ 消化器内科 | ⑪ 産婦人科 | ⑰ 腫瘍放射線科 | ㉓ 企業長兼院長 |
| ⑥ 循環器内科 | ⑫ 泌尿器科 | ⑱ 麻酔科 | |





中期目標(2025年度～2029年度)

2025年4月1日

掛川市・袋井市病院企業団立中東遠総合医療センター
企業長兼院長 宮地 正彦

中東遠総合医療センターが、中東遠地域の基幹病院としてすべての人に質の高い医療を提供し、愛され信頼される病院となるため、次のとおり中期目標を定め、全職員が一丸となって達成に向け努力することを決意する。

1 地域医療への貢献

- 1) 全科の医師を充足させる
- 2) 救急医療をオール中東遠で支える
- 3) 地域がん診療連携拠点病院として地域完結型のがん診療体制の構築に貢献する
- 4) 脳血管疾患及び循環器疾患の拠点として更なる体制強化を図る
- 5) 圏域内の機能分担と連携強化を推進し、将来に向けた地域包括ケアシステムの体制構築に貢献する
- 6) トップクラスの人間ドック機能を確立し、病気の予防・早期発見・早期治療に貢献する
- 7) DXの推進とIT、AIの積極的な活用により、診療支援の強化と業務改善を実現する
- 8) スポーツ医療センターの開設を目指す
- 9) 国際病院評価機構(JCI)の認定取得を目指す
- 10) 経常収支の黒字化を達成し、持続可能な病院運営を実現する

2 誇りと働きがいを持てる病院の創造

- 1) 市民に愛され信頼される病院になる(患者満足度の向上)
- 2) 職員一人ひとりが接遇力向上の意識を持ち、患者さまに安心と信頼を提供する
- 3) 職員が誇りと働きがいを実感できる環境を創る(職員意欲・満足度の向上)
- 4) 職員間の心理的安全性を高め、組織全体のパフォーマンス向上を図る
- 5) すべての職種で働き方改革を推進し、A水準を確実に達成する
- 6) 県内屈指の急性期病院として中東遠ブランドを醸成する

3 日本トップクラスの臨床研修病院を目指す

- 1) 優秀な初期研修医のフルマッチを継続的に達成する
- 2) 専攻医(3～5年目の医師)を20名以上にする
- 3) 内科・皮膚科・救急科に加えて、外科・整形外科・小児科・麻酔科の専門研修基幹施設になる
- 4) すべての職種において教育・研修体制の更なる強化を図り、医療の質向上と専門性の向上を実現する
- 5) すべての職種において専門資格、認定資格等の有資格者を増やす



2025年度 運営目標

2025年4月1日

掛川市・袋井市病院企業団立中東遠総合医療センター
企業長兼院長 宮地 正彦

1 地域医療への貢献

- 1) 医師充足への一定の道筋を付ける
(総合診療科、呼吸器内科、糖尿病・内分泌内科、血液・腫瘍内科、心臓血管外科)
- 2) がん診療連携拠点病院として更なるがん診療機能の向上を図る
 - ・がん登録件数を1,300件/年以上とする
 - ・悪性腫瘍の手術件数を750件/年以上とする
 - ・がんに係る薬物療法の患者数を1,400件/年以上とする
 - ・放射線治療の患者数を350件/年以上とする
 - ・緩和ケアチーム新規介入件数を250件/年以上とする
 - ・がん遺伝子パネル検査の実施件数を10件/年以上とする
- 3) 1日当たりの入院患者を430人以上とする
- 4) 1月当たりのECU稼働率を95%以上(14床稼働)とする
- 5) 手術件数(手術室内)を6,600件/年(550件/月)以上とする
 - ・全身麻酔件数を2,500件/年以上とする
 - ・緊急全身麻酔件数を350件/年以上とする
- 6) 手術件数(血管造影室内)を1,200件/年(100件/月)以上とする
- 7) 紹介件数を26,000件/年(2,167件/月)以上とする
- 8) 人間ドック・健診センターの受診者数を19,000件/年(80件/日)以上とする
 - ・人間ドック50件/日以上、健康診断・協会けんぽ30件/日以上とする
 - ・がんに関連する要精密検査(D判定)対象者の受診率を80%以上とする
- 9) 病院機能評価の認定(更新)を受ける
- 10) 院内PHSのスマートフォン化を進め、円滑な情報共有と業務効率の向上に活用する
- 11) ペーパーレス化を推進し、紙の使用枚数を2024年度比10%削減する
- 12) 将来に向けた病院整備計画を確実に推進する
- 13) 経常収支を黒字にする

2 誇りと働きがいを持てる病院の創造

- 1) 入院の患者満足度を4.50以上とする
- 2) 外来の患者満足度を4.10以上とする
- 3) 外来患者の診察待ち時間1時間以内の割合を85%以上とする
- 4) 外来患者の会計待ち時間10分以内の割合を85%以上とする
- 5) ハラスメントを撲滅し、心理的安全性を高めることで、働きやすい職場環境をつくる
 - ・職員意識調査の「意欲度」を68.5以上、「満足度」を66.5以上、
 - 「上司との関係性」を68.5以上、「職員同士のコミュニケーション」を66.5以上とする
- 6) すべての職員の時間外勤務を月60時間以下とする
- 7) すべての職員が年次有給休暇を5日以上確実に取得し、リフレッシュ休暇7日を取得する
- 8) すべての職員にポータルサイトの更なる普及を図る

3 日本トップクラスの臨床研修病院を目指す

- 1) 優秀な初期研修医のフルマッチを継続する
- 2) 当院で研修する専攻医を7人以上確保する
- 3) 初期研修及び専門研修における魅力的な研修プログラムを再構築する
- 4) 専門医制度基幹施設となる領域数を4領域に増やす
- 5) すべての職種において教育プログラムを作成・実践し、体系的な人材育成を図る
- 6) すべての職種において有資格者を増加させる
 - ・Sランク1人、Aランク4人、Bランク6人増加させる
- 7) 病理解剖を上半期6件、下半期6件以上実施する



令和7年度 診療科目目標発表



総合内科

General Internal Medicine

1

総合内科

		氏 名	所 属
研修医初診外来	火曜	大鐘 崇志	非常勤 静岡赤十字病院 救急科
	木曜	城向 裕美子	循環器内科
	木曜	大瀬 綾子	総合内科

		氏 名	所 属
漢方外来	月火水金	大瀬 綾子	総合内科

		氏 名	所 属
膠原病	火曜	西尾 信一郎	非常勤 伊達医院

2

総合内科

令和7年度 目標

1 診療目標

項 目	R3	R4	R5	R6	R7目標
外来初診患者数（人／月）	32	48	33	23	
研修医初診外来（人／年）					150
漢方外来患者数（人／年）	1,473	3,155	3,118	3,178	3,000

3

総合内科

令和7年度 目標

2 経営改善

	項 目	目 標
1	研修医教育の充実	患者さん、研修医がともに満足できる外来 → 初期研修医の獲得
2	常勤医師の増加	東洋医学会指定研修施設への登録 → 漢方専門医を目指す医師の赴任

4



3 医療の質向上 基幹病院の内科としての機能向上

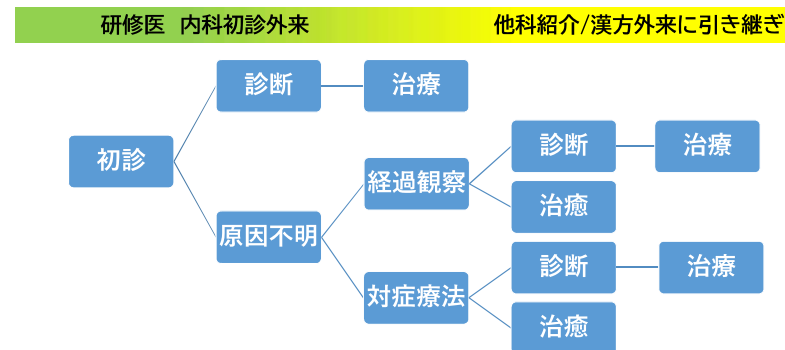
項目	目標
1 研修医教育	初診外来業務のサポート
2 漢方外来	診断困難な患者の経過観察/治療 西洋学的治療の補完



5



3 医療の質向上 基幹病院の内科としての機能向上



6



【漢方外来とコロナ対応：後遺症】

<2021年11月－2025年3月>

コロナ後遺症 約450名 漢方外来受診

うち重症後遺症 160名

重症＝「通勤/通学が全くできない」

7



【漢方外来とコロナ対応：後遺症】

<診断されない後遺症>

急性期にコロナ検査が陰性/無症状

→ その後

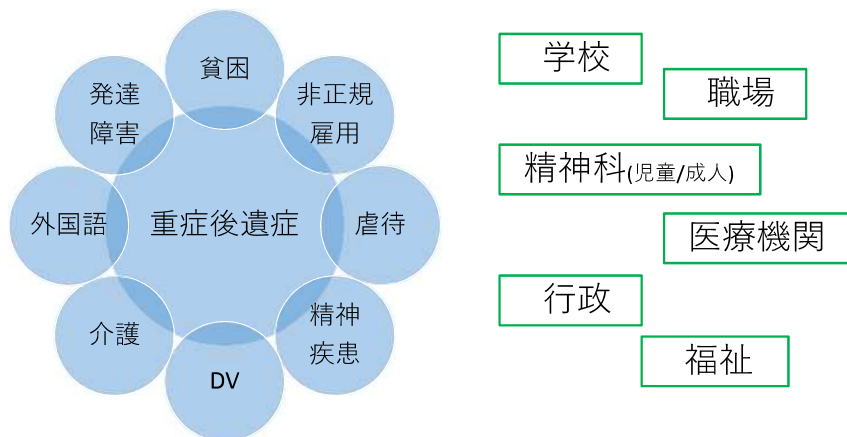
仕事に行けない
学校に行けない
家事ができない

重症後遺症のリスク因子



8

【漢方外来でコロナ後遺症診療を通して見えてくるもの】



9

【こんな時は漢方外来へ】

- ◆ (カゼの後に) 以前のように仕事/学校に行けない
→ 後遺症かもしれません
- ◆ 色々受診したが診断が見つからない
→ 診断がつかなくても治療ができます
- ◆ つらい症状が長引いている
→ つらさを和らげます
- ◆ 高価な薬剤費が大変
→ 保険適用の漢方薬で治療します

10

決 意

- ・ 研修医の教育とサポート
- ・ 漢方診療を通して地域のお役に立つ

11



令和7年度 診療科目目標発表



糖尿病・内分泌内科

Diabetes Medicine
and Endocrinology

13



糖尿病・内分泌内科



	氏 名	役 職
1	四方 雅隆	医長（診療科長）

14



糖尿病・内分泌内科

令和7年度 目標

1 診療目標

項 目	R2	R3	R4	R5	R6	R7目標
新入院患者数（人／月）	8	9	8	9	2	2
紹介患者数（人／月）	17	21	21	27	24	35
逆紹介患者数（人／月）	14	11	11	27	31	50

15



糖尿病・内分泌内科

令和7年度 目標

2 医療の質向上

	項 目	目 標
1	専門的な糖尿病医療の提供	糖尿病地域連携パス対象患者 50人
2	内分泌疾患に関する医療の提供	
3	肥満症診療の実施	肥満症治療薬導入 20人/年

16

3 経営改善

	項 目	目 標
1	外来のスリム化	紹介と逆紹介を推進し、通院患者数を5割とする
2	院内各科との連携を深め、手術件数増加・入院期間短縮に貢献する	

17

4 専攻医の確保・教育研修

	項 目	目 標
1	初期研修医の教育を行う	1人/月
2	学会発表に参加する	3回/年

18

5 診療科の特徴・PR

周辺自治体(掛川市・袋井市・菊川市・御前崎市・森町・牧之原市・吉田町・島田市)で唯一の常勤医を有する糖尿病・内分泌内科です。

19

6 今後取り組んでいきたいこと

当科の専門性を維持するために、紹介と逆紹介に積極的に取り組みたいと考えています。

20



決 意

- ・ 紹介と逆紹介を通して、地域医療に貢献します。
- ・ 地域唯一の病院専門診療科として、受け入れキャパシティーの確保に努めます。



令和7年度 診療科目目標発表



腎臓内科 Nephrology

25

腎臓内科

	氏 名	役 職
1	赤堀 利行	副院長 兼 腎臓内科診療部長 兼 感染対策管理室長
2	稲垣 浩司	部長 兼 血液浄化センター長 兼 臨床研修センター副センター長
3	辻 将志	部長
4	古澤 眞	医長
5	飯室 敬太	専攻医

26



腎臓内科

令和7年度 目標

1 診療目標

項 目	R2	R3	R4	R5	R6	R7目標
1日あたり入院患者数（人）	18.8	19.8	22.0	28.0	21.4	20
新入院患者数（人／月）	40	39	38	53	44	40
手術件数（人／月）（カテ含む）	12	16	18	6	5	10
外来初診患者数（人／月）	26	23	30	37	39	30
紹介患者数（人／月）	31	37	43	56	56	55
逆紹介患者数（人／月）	32	32	39	49	41	45

27



腎臓内科

令和7年度 目標

2 医療の質向上 腎臓系疾患の早期発見・早期治療とCKD患者への教育入院の推進

	項 目	目 標
1	CKD+DKD患者に対する 腎臓病教育・教育入院の実施	対象患者全員へ積極的推奨を行う
2	地域内におけるチーム医療の 強化	地域医療機関との研修会等の実施

28



3 経営改善

	項 目	目 標
1	中東遠地域全体の腎臓病医療の充実	受け入れ体制の充実

29



4 専攻医の確保・教育研修 大学との連携による教育体制強化

	項 目	目 標
1	大学との連携	大学と連携し教育レベルの向上を図る
2	教育体制の強化と研修医の確保	教育の充実を図り研修医確保につなげる

30



決 意

診療レベルの向上と
地域連携の強化により
信頼される腎臓内科として
地域医療に貢献します

31



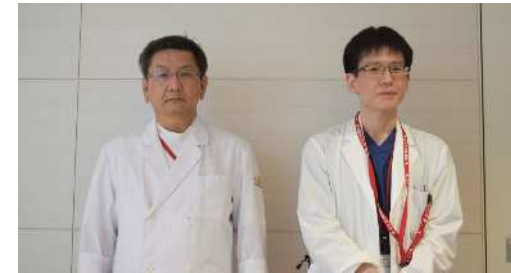
令和7年度 診療科目目標発表



脳神経内科 Neurology

33

脳神経内科



	氏 名	役 職
1	若井 正一	副院長 兼 脳神経内科診療部長 兼 睡眠医療センター長 兼 認知症疾患医療センター長 兼 人間ドック・健診センター長
2	寺澤 毅彦	医長

34

脳神経内科

令和7年度 目標

1 診療目標

項 目	R2	R3	R4	R5	R6	R7目標
1日あたり入院患者数（人）	19.3	21.5	20.9	30.7	32.8	50.0
新入院患者数（人／月）	59	60	64	86	87	90
外来初診患者数（人／月）	46	43	46	49	48	50
紹介患者数（人／月）	77	76	79	95	102	105
逆紹介患者数（人／月）	69	68	77	87	74	80

35

脳神経内科

令和7年度 目標

2 医療の質向上 神経疾患の確実な受入と認知症への対応強化

	項 目	目 標
1	認知症疾患医療センターの体制強化	認知症疾患医療センター患者数 950人／年
2	認知症ケア加算1の堅持	スタッフ配置による診療の充実と加算 の算定

36



3 経営改善

	項目	目標
1	アルツハイマー型認知症の新薬治療の普及	新薬使用の可否を判断するアミロイドPET撮像認証取得施設として多くの患者を受け入れる
2	睡眠医療センターの充実	睡眠検査の増加

37



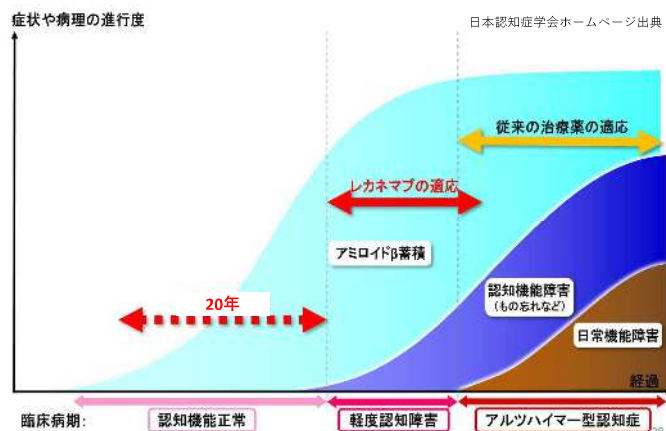
4 専攻医の確保・教育研修 教育体制の強化と研修医の確保

	項目	目標
1	教育体制の強化と研修医の確保	教育体制の強化と教育レベルの明確化を図り研修医の確保につなげる
2	内科専攻医への教育を充実	教育プログラムの確実な実施により優秀な内科医を育成する

38



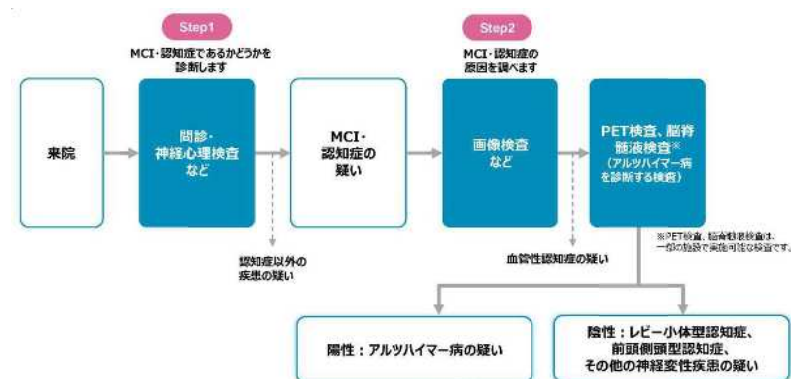
アルツハイマー型認知症の早期発見・早期治療



39



アルツハイマー型認知症の検査と治療の流れ



日本神経学会監修：認知症疾患診療ガイドライン2017. 医学書院. p36-37, 210-212, 2017 を元に
三村 賢 先生 (慶應義塾大学予防医療センター 特任教授) が作成

40

脳神経内科としての専門性の発揮



中東遠ならびに志太榛原は脳神経内科の診療を行う総合病院が少ない地域です。

当院はCT、MRI、SPECT、脳波検査装置、終夜睡眠ポリグラフィ検査装置、PET-CTなど、脳神経内科の診療に必要な機器が揃っています。
最新機器と専門的なスキルにより専門性の高い診療を行ってまいります。

41

睡眠医療センターの充実



42

決意

脳神経内科としての
専門性を発揮し
地域の医療水準向上を
図ります

43



令和7年度 診療科目目標発表



消化器内科 Gastroenterology

45

消化器内科



	氏 名	役 職
1	池上 脩二	部長（診療科長）兼 内視鏡センター長
2	高柳 正弘	診療部長
3	松葉 朋彦	部長
4	竹内 悠祐	医長
5	山口 智大	医長
6	大橋 佳代子	後期研修医

46

消化器内科

令和7年度 目標

1 診療目標

項 目	R2	R3	R4	R5	R6	R7目標
1日あたり入院患者数（人）	27.2	25.6	24.3	22.3	33.8	45
新入院患者数（人／月）	64	66	63	60	80	95
外来初診患者数（人／月）	55	76	82	87	94	110
紹介患者数（人／月）	83	112	124	130	138	150
逆紹介患者数（人／月）	80	73	77	81	91	100

47

消化器内科

令和7年度 目標

2 医療の質向上 連携強化による消化器系疾患への対応強化

	項 目	目 標
1	消化器病センターの体制強化	紹介患者の確実な受け入れと対応
2	ドック・検診の再検患者への対応強化	再検査・精密検査の受入強化 800件／年
3	早期胃癌・早期大腸癌の内視鏡治療の推進	病院内外への広報、必要な患者全例への提案

48



3 経営改善

	項 目	目 標
1	内視鏡治療の効率化・絶対数増加	内視鏡治療の周知、実施時のPASS強化
2	入院化学療法の推進	入院で実施できるものは可能な限り実施。

49



4 専攻医の確保・教育研修 専攻医の獲得と診療体制の維持

	項 目	目 標
1	常勤医師の増員	常勤医師の更なる増員
2	教育体制の強化と専攻医の確保	研修医のリクルート、専攻医の確保

50



診療科の特徴

消化器内科は、消化管および肝胆膵など諸臓器の多種・多様な疾患に対応して診療しています。

日常外来診療では、様々な慢性疾患の対応の他、ドック・健診後の精査で消化器がんの早期発見・治療を推進しています。また、腹痛・黄疸・貧血・吐下血などの様々な症状・所見への精査・加療を行っています。

51



診療科の特徴

救急外来後の受診、予約外での紹介受診にも数多く対応していて、当日の緊急検査・処置も必要に応じて迅速に実施しています。

このため、予定入院より予定外の入院が多いのも特徴です。

今後も地域の安全・安心を守るため、全力で貢献していきます。

52



消化器内科常勤6名になりました。

非常勤の先生方とも連携し、より一層積極的に外来・検査・入院対応を行っています。

今後の当科のパワーアップにご期待ください。



決 意

消化器疾患への迅速
かつ適切な診療と
がんの早期発見・早期治療
に貢献します



令和7年度 診療科目目標発表

循環器内科 Cardiology

57

循環器内科

循環器内科チーム



	氏 名	役 職
1	森川 修司	副院長 兼 医務局長 兼 循環器内科（統括）診療部長 兼 心血管内治療センター長 兼 ICU・CCUセンター副センター長 兼 臨床研修センター長 兼 地域医療支援センター長
2	高山 洋平	診療部長 兼 心血管内治療センター副センター長
3	城向 裕美子	診療部長
4	井上 直也	部長
5	組橋 裕喜	医長
6	鈴木 綾子	医長
7	三科 貴	医長
8	早川 輝	医長
9	大日方 遼	医員 兼 救急科医員
10	高橋 奈生	医員 兼 救急科医員

循環器内科

令和7年度 目標

1 診療目標

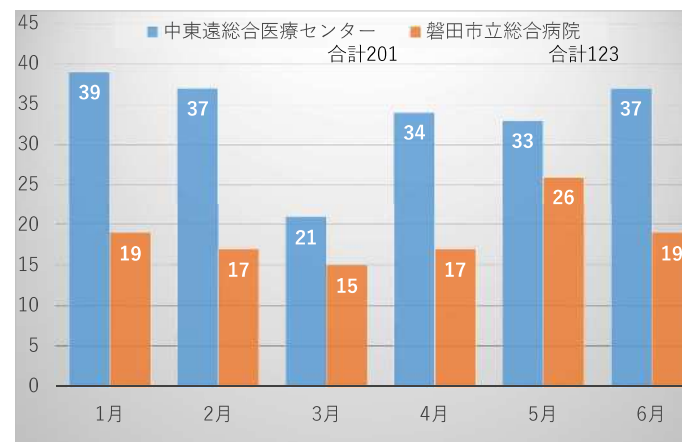
項 目	R2	R3	R4	R5	R6	R7目標
1日あたり入院患者数（人）	45.1	44.8	50.2	48.9	54.4	55.0
新入院患者数（人／月）	151	146	145	145	148	150
カテ件数（件／月）（心臓）	70	75	68	69	65	70
外来初診患者数（人／月）	117	107	118	116	122	120
紹介患者数（人／月）	156	166	162	165	174	170
逆紹介患者数（人／月）	235	228	214	243	234	240

循環器内科

令和7年度 目標

狭心症や心筋梗塞に対する経皮的冠動脈形成術（2025）

目標：400





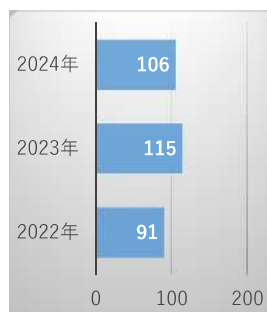
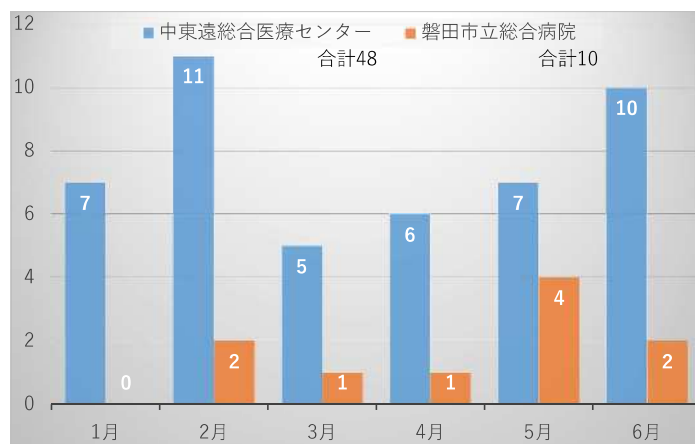
循環器内科

令和7年度

目標

下肢動脈疾患に対する経皮的末梢血管形成術（2025）

目標：120



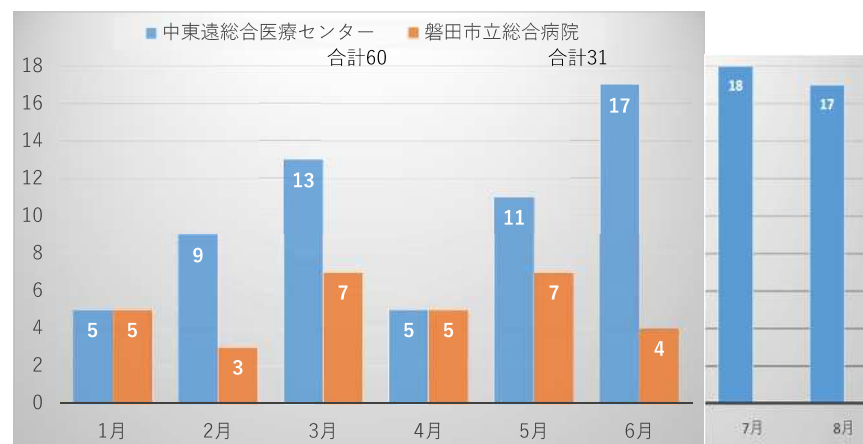
循環器内科

令和7年度

目標

不整脈に対するカテーテルアブレーション（2025）

目標：150

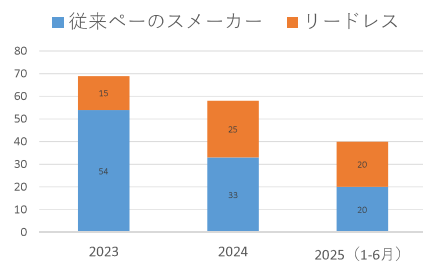
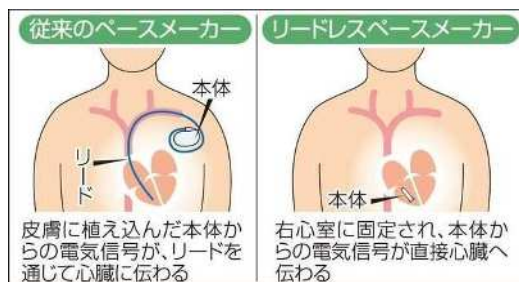


循環器内科

令和7年度

目標

リードレスペースメーカー



循環器内科

令和7年度

目標

2 医療の質向上

地域医療を守るため、多職種を含めたチーム医療のもと、絶対断らず、最善・最良の医療を提供（病院の基本的かつ根本的な機能）

項目	目標
1 緊急疾患への対応	24時間365日 断らない診療
2 地域開業医様との病診連携	紹介患者さん/逆紹介患者さんの増加
3 学術活動への積極的参加	臨床研究、学会発表、論文投稿の推進
4 専門医の習得	心血管インターベンション治療学会の専門医(1人⇒2人) 不整脈の専門医等
5 治療オプションの拡大	心臓血管外科の招聘 ① 循環器内科単独では対応困難な症例（例：大動脈弁狭窄症・僧帽弁閉鎖不全症・解離性大動脈瘤など）に対して、心臓外科の存在は治療選択肢を広げる。 ② 内科的治療（PCI、薬物療法）と外科的治療（CABG、弁置換術）を症例ごとに最適に選択できる体制が構築される。

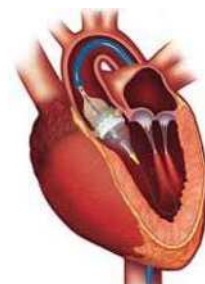


3 経営改善

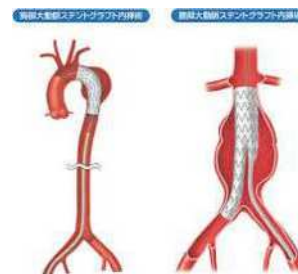
項目	具体的方法
1 診療収益の最大化	カテーテル治療件数の増加、専門外来の設置、高度医療の導入（ 心臓血管外科が必要 ）
2 コスト削減・効率化	医療資源の適正管理：カテーテル・デバイスの適正使用と購買契約の見直し
3 診療の質と患者満足度の向上	①再入院率の低下 心不全や不整脈の再入院率を抑えることでDPC収益の悪化を防ぐ 地域包括ケアとの連携で早期フォロー体制を構築 ②チーム医療の強化 多職種カンファレンスの定期開催でケアの質とアウトカム向上
4 紹介患者さんの増加	①地域連携のさらなる強化 紹介元開業医さんへの勉強会や最新治療の紹介 開業医さんへの報告書のさらなる充実 開業医さんへの挨拶回り ②地域住民の信頼構築・獲得 地域住民向け勉強会・講演で信頼強化 医療の質向上、 心臓血管外科の招聘



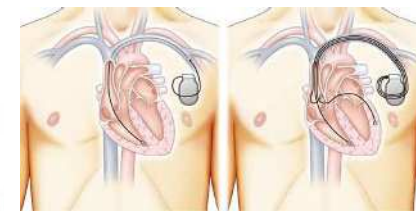
高度医療の導入



弁膜症



大動脈瘤/大動脈解離



致死的不整脈/重症心不全



4 専攻医の確保・教育研修

項目	目標	方法
1 研修医・専攻医の教育の充実	毎年・各年1人は循環器内科チームへの専攻医の確保（人材の大切さ）	1.基本的な心電図読影、心エコー等の、実践 2.学会発表、 論文作成 3.魅力的な循環器内科チームの構築
2 症例数の確保	臨床研修病院としての魅力を高め、研修医→専攻医へ	1.紹介患者の増加 2.カテーテル治療件数の増加 3. 心臓血管外科の招聘

今年度の当科専攻医の論文業績

・ Ohinata R, Inoue N, Morikawa S, et al.

Utility of the Novel Auto + A3 Threshold Function in Maintaining Atrioventricular Synchrony. Pacing Clin Electrophysiol. 2025;48:79-82.

・ Mishina T, Inoue N, Morikawa S et al.

Evaluation of right ventricular pacing-induced coronary microvascular dysfunction using guide wire-based sensor technology. Eur Heart J Case Rep. 2025;9:ytaf022.



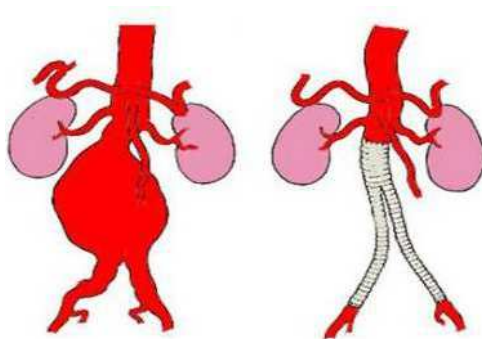
当科の専攻医確保の現状

	専攻医1年目 (循環器内科)	当初の希望科
6年前	1人	外科系
5年前	1人	消化器内科 or 消化器外科
4年前	0人	
3年前	1人	救急科 or 外科
2年前	1人	小児科
昨年	1人	小児科
今年	?? (2-4人)	消化器内科, 腎臓内科, 外科, 整形or消化器内科





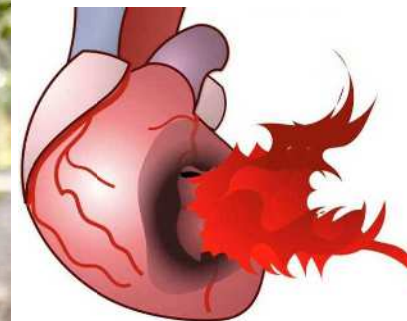
心臓血管外科の招聘



心臓血管外科の招聘



Nature 633, 45-46 (2024)



地域住民を守るために～心臓血管外科の重要性～

- 心臓血管外科がない総合病院では、人口10万人あたり年間10-15人の死亡数増加が発生する算出されている。
- 袋井市の人口は87,648人掛川市の人口は114,582人（両市を合わせた総人口は87,648人 + 114,582人 = 202,230人）。
- 概算で袋井市、掛川市の総人口20万人とすると、心臓血管外科がないことにより年間20-30人の死亡数増加の可能性が示唆される。



循環器内科チームの決意

- ✓最高の診療を実現するために、診療は勿論、臨床研究・教育との三位一体の取り組みを重視し、日々研鑽を重ねてまいります。
- ✓多職種を含めたチーム医療のもと、開業医の先生方と密に連携をとり、引き続き24時間365日絶対に断らない医療を提供し、地域医療に貢献します。
- ✓地域医療のため、心臓血管外科招聘の努力を継続し、さらに質の高い医療の提供を目指します。



令和7年度 診療科目目標発表



外科 Surgery

73

外科



	氏 名	役 職
1	宮地 正彦	企業長 兼 院長 兼 がん総合診療センター長
2	京兼 隆典	副院長 兼 外科（統括）診療部長 兼 消化器外科（統括）診療部長 兼 消化器病センター長 兼 がん総合診療センター副センター長 兼 化学療法センター長
3	河合 徹	副医務局長 兼 外科診療部長 兼 消化器外科診療部長 兼 呼吸器外科診療部長 兼 手術センター副センター長 兼 教育研修センター長
4	相場 利貞	診療部長 兼 消化器外科診療部長
5	久世 真悟	診療部長 兼 血管外科診療部長 兼 乳腺外科診療部長
6	中橋 剛一	部長
7	深田 浩志	部長
8	斉藤 大佑	医長
9	池田 幸陽	医長
10	石田 万智	医員 兼 救急科医員

74



外科

令和7年度 目標

1 診療目標

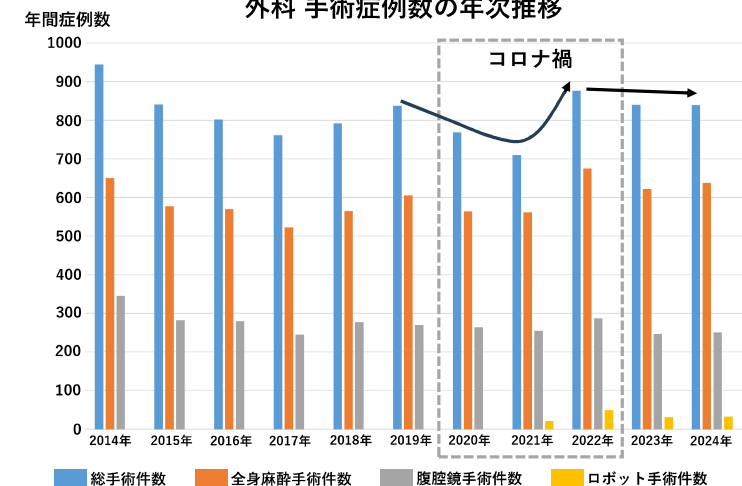
項 目	R2	R3	R4	R5	R6	R7目標
1日あたり入院患者数（人）	31.3	33.1	39.9	38.9	41.6	45
新入院患者数（人／月）	85	88	102	101	106	110
手術件数（人／月）	62	61	72	71	69	75
外来初診患者数（人／月）	87	76	86	83	88	95
紹介患者数（人／月）	106	106	110	107	110	115
逆紹介患者数（人／月）	55	51	58	60	59	65

75



外科

外科 手術症例数の年次推移

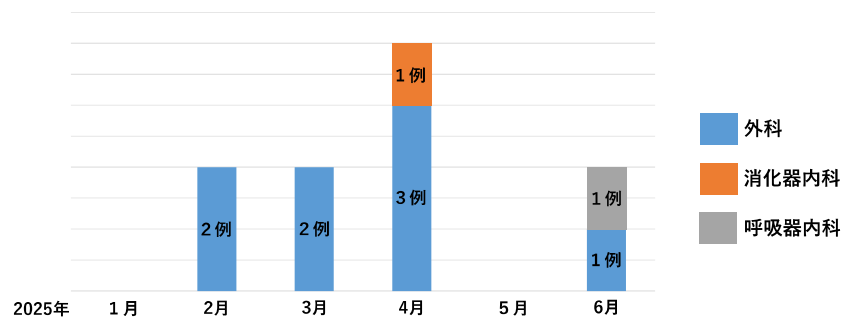


76

2 医療の質向上

	項 目	目 標
1	外科領域手術の拡大	大学との連携による小児外科・呼吸器外科手術症例数の増加 (外科専門研修基幹施設認定のために必須)
2	手術支援ロボットの活用	外科専攻医のロボット手術手技習得
3	がんゲノム医療の推進	がん遺伝子パネル検査：年間30例以上 (2024.10.1 がんゲノム医療連携病院に指定)

がん遺伝子パネル検査実施件数



(当院は2024.10に県内8施設目の「がんゲノム医療連携病院に指定されました)

《標準治療》



化学療法



放射線療法



《がんゲノム医療》

がん遺伝子パネル検査

ANK1	ANKRD18	ANKRD1	ANKRD2	ANKRD3	ANKRD4	ANKRD5	ANKRD6	ANKRD7	ANKRD8	ANKRD9	ANKRD10	ANKRD11	ANKRD12	ANKRD13	ANKRD14	ANKRD15	ANKRD16	ANKRD17	ANKRD18	ANKRD19	ANKRD20	ANKRD21	ANKRD22	ANKRD23	ANKRD24	ANKRD25	ANKRD26	ANKRD27	ANKRD28	ANKRD29	ANKRD30	ANKRD31	ANKRD32	ANKRD33	ANKRD34	ANKRD35	ANKRD36	ANKRD37	ANKRD38	ANKRD39	ANKRD40	ANKRD41	ANKRD42	ANKRD43	ANKRD44	ANKRD45	ANKRD46	ANKRD47	ANKRD48	ANKRD49	ANKRD50	ANKRD51	ANKRD52	ANKRD53	ANKRD54	ANKRD55	ANKRD56	ANKRD57	ANKRD58	ANKRD59	ANKRD60	ANKRD61	ANKRD62	ANKRD63	ANKRD64	ANKRD65	ANKRD66	ANKRD67	ANKRD68	ANKRD69	ANKRD70	ANKRD71	ANKRD72	ANKRD73	ANKRD74	ANKRD75	ANKRD76	ANKRD77	ANKRD78	ANKRD79	ANKRD80	ANKRD81	ANKRD82	ANKRD83	ANKRD84	ANKRD85	ANKRD86	ANKRD87	ANKRD88	ANKRD89	ANKRD90	ANKRD91	ANKRD92	ANKRD93	ANKRD94	ANKRD95	ANKRD96	ANKRD97	ANKRD98	ANKRD99	ANKRD100	ANKRD101	ANKRD102	ANKRD103	ANKRD104	ANKRD105	ANKRD106	ANKRD107	ANKRD108	ANKRD109	ANKRD110	ANKRD111	ANKRD112	ANKRD113	ANKRD114	ANKRD115	ANKRD116	ANKRD117	ANKRD118	ANKRD119	ANKRD120	ANKRD121	ANKRD122	ANKRD123	ANKRD124	ANKRD125	ANKRD126	ANKRD127	ANKRD128	ANKRD129	ANKRD130	ANKRD131	ANKRD132	ANKRD133	ANKRD134	ANKRD135	ANKRD136	ANKRD137	ANKRD138	ANKRD139	ANKRD140	ANKRD141	ANKRD142	ANKRD143	ANKRD144	ANKRD145	ANKRD146	ANKRD147	ANKRD148	ANKRD149	ANKRD150	ANKRD151	ANKRD152	ANKRD153	ANKRD154	ANKRD155	ANKRD156	ANKRD157	ANKRD158	ANKRD159	ANKRD160	ANKRD161	ANKRD162	ANKRD163	ANKRD164	ANKRD165	ANKRD166	ANKRD167	ANKRD168	ANKRD169	ANKRD170	ANKRD171	ANKRD172	ANKRD173	ANKRD174	ANKRD175	ANKRD176	ANKRD177	ANKRD178	ANKRD179	ANKRD180	ANKRD181	ANKRD182	ANKRD183	ANKRD184	ANKRD185	ANKRD186	ANKRD187	ANKRD188	ANKRD189	ANKRD190	ANKRD191	ANKRD192	ANKRD193	ANKRD194	ANKRD195	ANKRD196	ANKRD197	ANKRD198	ANKRD199	ANKRD200	ANKRD201	ANKRD202	ANKRD203	ANKRD204	ANKRD205	ANKRD206	ANKRD207	ANKRD208	ANKRD209	ANKRD210	ANKRD211	ANKRD212	ANKRD213	ANKRD214	ANKRD215	ANKRD216	ANKRD217	ANKRD218	ANKRD219	ANKRD220	ANKRD221	ANKRD222	ANKRD223	ANKRD224	ANKRD225	ANKRD226	ANKRD227	ANKRD228	ANKRD229	ANKRD230	ANKRD231	ANKRD232	ANKRD233	ANKRD234	ANKRD235	ANKRD236	ANKRD237	ANKRD238	ANKRD239	ANKRD240	ANKRD241	ANKRD242	ANKRD243	ANKRD244	ANKRD245	ANKRD246	ANKRD247	ANKRD248	ANKRD249	ANKRD250	ANKRD251	ANKRD252	ANKRD253	ANKRD254	ANKRD255	ANKRD256	ANKRD257	ANKRD258	ANKRD259	ANKRD260	ANKRD261	ANKRD262	ANKRD263	ANKRD264	ANKRD265	ANKRD266	ANKRD267	ANKRD268	ANKRD269	ANKRD270	ANKRD271	ANKRD272	ANKRD273	ANKRD274	ANKRD275	ANKRD276	ANKRD277	ANKRD278	ANKRD279	ANKRD280	ANKRD281	ANKRD282	ANKRD283	ANKRD284	ANKRD285	ANKRD286	ANKRD287	ANKRD288	ANKRD289	ANKRD290	ANKRD291	ANKRD292	ANKRD293	ANKRD294	ANKRD295	ANKRD296	ANKRD297	ANKRD298	ANKRD299	ANKRD300	ANKRD301	ANKRD302	ANKRD303	ANKRD304	ANKRD305	ANKRD306	ANKRD307	ANKRD308	ANKRD309	ANKRD310	ANKRD311	ANKRD312	ANKRD313	ANKRD314	ANKRD315	ANKRD316	ANKRD317	ANKRD318	ANKRD319	ANKRD320	ANKRD321	ANKRD322	ANKRD323	ANKRD324	ANKRD325	ANKRD326	ANKRD327	ANKRD328	ANKRD329	ANKRD330	ANKRD331	ANKRD332	ANKRD333	ANKRD334	ANKRD335	ANKRD336	ANKRD337	ANKRD338	ANKRD339	ANKRD340	ANKRD341	ANKRD342	ANKRD343	ANKRD344	ANKRD345	ANKRD346	ANKRD347	ANKRD348	ANKRD349	ANKRD350	ANKRD351	ANKRD352	ANKRD353	ANKRD354	ANKRD355	ANKRD356	ANKRD357	ANKRD358	ANKRD359	ANKRD360	ANKRD361	ANKRD362	ANKRD363	ANKRD364	ANKRD365	ANKRD366	ANKRD367	ANKRD368	ANKRD369	ANKRD370	ANKRD371	ANKRD372	ANKRD373	ANKRD374	ANKRD375	ANKRD376	ANKRD377	ANKRD378	ANKRD379	ANKRD380	ANKRD381	ANKRD382	ANKRD383	ANKRD384	ANKRD385	ANKRD386	ANKRD387	ANKRD388	ANKRD389	ANKRD390	ANKRD391	ANKRD392	ANKRD393	ANKRD394	ANKRD395	ANKRD396	ANKRD397	ANKRD398	ANKRD399	ANKRD400	ANKRD401	ANKRD402	ANKRD403	ANKRD404	ANKRD405	ANKRD406	ANKRD407	ANKRD408	ANKRD409	ANKRD410	ANKRD411	ANKRD412	ANKRD413	ANKRD414	ANKRD415	ANKRD416	ANKRD417	ANKRD418	ANKRD419	ANKRD420	ANKRD421	ANKRD422	ANKRD423	ANKRD424	ANKRD425	ANKRD426	ANKRD427	ANKRD428	ANKRD429	ANKRD430	ANKRD431	ANKRD432	ANKRD433	ANKRD434	ANKRD435	ANKRD436	ANKRD437	ANKRD438	ANKRD439	ANKRD440	ANKRD441	ANKRD442	ANKRD443	ANKRD444	ANKRD445	ANKRD446	ANKRD447	ANKRD448	ANKRD449	ANKRD450	ANKRD451	ANKRD452	ANKRD453	ANKRD454	ANKRD455	ANKRD456	ANKRD457	ANKRD458	ANKRD459	ANKRD460	ANKRD461	ANKRD462	ANKRD463	ANKRD464	ANKRD465	ANKRD466	ANKRD467	ANKRD468	ANKRD469	ANKRD470	ANKRD471	ANKRD472	ANKRD473	ANKRD474	ANKRD475	ANKRD476	ANKRD477	ANKRD478	ANKRD479	ANKRD480	ANKRD481	ANKRD482	ANKRD483	ANKRD484	ANKRD485	ANKRD486	ANKRD487	ANKRD488	ANKRD489	ANKRD490	ANKRD491	ANKRD492	ANKRD493	ANKRD494	ANKRD495	ANKRD496	ANKRD497	ANKRD498	ANKRD499	ANKRD500	ANKRD501	ANKRD502	ANKRD503	ANKRD504	ANKRD505	ANKRD506	ANKRD507	ANKRD508	ANKRD509	ANKRD510	ANKRD511	ANKRD512	ANKRD513	ANKRD514	ANKRD515	ANKRD516	ANKRD517	ANKRD518	ANKRD519	ANKRD520	ANKRD521	ANKRD522	ANKRD523	ANKRD524	ANKRD525	ANKRD526	ANKRD527	ANKRD528	ANKRD529	ANKRD530	ANKRD531	ANKRD532	ANKRD533	ANKRD534	ANKRD535	ANKRD536	ANKRD537	ANKRD538	ANKRD539	ANKRD540	ANKRD541	ANKRD542	ANKRD543	ANKRD544	ANKRD545	ANKRD546	ANKRD547	ANKRD548	ANKRD549	ANKRD550	ANKRD551	ANKRD552	ANKRD553	ANKRD554	ANKRD555	ANKRD556	ANKRD557	ANKRD558	ANKRD559	ANKRD560	ANKRD561	ANKRD562	ANKRD563	ANKRD564	ANKRD565	ANKRD566	ANKRD567	ANKRD568	ANKRD569	ANKRD570	ANKRD571	ANKRD572	ANKRD573	ANKRD574	ANKRD575	ANKRD576	ANKRD577	ANKRD578	ANKRD579	ANKRD580	ANKRD581	ANKRD582	ANKRD583	ANKRD584	ANKRD585	ANKRD586	ANKRD587	ANKRD588	ANKRD589	ANKRD590	ANKRD591	ANKRD592	ANKRD593	ANKRD594	ANKRD595	ANKRD596	ANKRD597	ANKRD598	ANKRD599	ANKRD600	ANKRD601	ANKRD602	ANKRD603	ANKRD604	ANKRD605	ANKRD606	ANKRD607	ANKRD608	ANKRD609	ANKRD610	ANKRD611	ANKRD612	ANKRD613	ANKRD614	ANKRD615	ANKRD616	ANKRD617	ANKRD618	ANKRD619	ANKRD620	ANKRD621	ANKRD622	ANKRD623	ANKRD624	ANKRD625	ANKRD626	ANKRD627	ANKRD628	ANKRD629	ANKRD630	ANKRD631	ANKRD632	ANKRD633	ANKRD634	ANKRD635	ANKRD636	ANKRD637	ANKRD638	ANKRD639	ANKRD640	ANKRD641	ANKRD642	ANKRD643	ANKRD644	ANKRD645	ANKRD646	ANKRD647	ANKRD648	ANKRD649	ANKRD650	ANKRD651	ANKRD652	ANKRD653	ANKRD654	ANKRD655	ANKRD656	ANKRD657	ANKRD658	ANKRD659	ANKRD660	ANKRD661	ANKRD662	ANKRD663	ANKRD664	ANKRD665	ANKRD666	ANKRD667	ANKRD668	ANKRD669	ANKRD670	ANKRD671	ANKRD672	ANKRD673	ANKRD674	ANKRD675	ANKRD676	ANKRD677	ANKRD678	ANKRD679	ANKRD680	ANKRD681	ANKRD682	ANKRD683	ANKRD684	ANKRD685	ANKRD686	ANKRD687	ANKRD688	ANKRD689	ANKRD690	ANKRD691	ANKRD692	ANKRD693	ANKRD694	ANKRD695	ANKRD696	ANKRD697	ANKRD698	ANKRD699	ANKRD700	ANKRD701	ANKRD702	ANKRD703	ANKRD704	ANKRD705	ANKRD706	ANKRD707	ANKRD708	ANKRD709	ANKRD710	ANKRD711	ANKRD712	ANKRD713	ANKRD714	ANKRD715	ANKRD716	ANKRD717	ANKRD718	ANKRD719	ANKRD720	ANKRD721	ANKRD722	ANKRD723	ANKRD724	ANKRD725	ANKRD726	ANKRD727	ANKRD728	ANKRD729	ANKRD730	ANKRD731	ANKRD732	ANKRD733	ANKRD734	ANKRD735	ANKRD736	ANKRD737	ANKRD738	ANKRD739	ANKRD740	ANKRD741	ANKRD742	ANKRD743	ANKRD744	ANKRD745	ANKRD746	ANKRD747	ANKRD748	ANKRD749	ANKRD750	ANKRD751	ANKRD752	ANKRD753	ANKRD754	ANKRD755	ANKRD756	ANKRD757	ANKRD758	ANKRD759	ANKRD760	ANKRD761	ANKRD762	ANKRD763	ANKRD764	ANKRD765	ANKRD766	ANKRD767	ANKRD768	ANKRD769	ANKRD770	ANKRD771	ANKRD772	ANKRD773	ANKRD774	ANKRD775	ANKRD776	ANKRD777	ANKRD778	ANKRD779	ANKRD780	ANKRD781	ANKRD782	ANKRD783	ANKRD784	ANKRD785	ANKRD786	ANKRD787	ANKRD788	ANKRD789	ANKRD790	ANKRD791	ANKRD792	ANKRD793	ANKRD794	ANKRD795	ANKRD796	ANKRD797	ANKRD798	ANKRD799	ANKRD800	ANKRD801	ANKRD802	ANKRD803	ANKRD804	ANKRD805	ANKRD806	ANKRD807	ANKRD808	ANKRD809	ANKRD810	ANKRD811	ANKRD812	ANKRD813	ANKRD814	ANKRD815	ANKRD816	ANKRD817	ANKRD818	ANKRD819	ANKRD820	ANKRD821	ANKRD822	ANKRD823	ANKRD824	ANKRD825	ANKRD826	ANKRD827	ANKRD828	ANKRD829	ANKRD830	ANKRD831	ANKRD832	ANKRD833	ANKRD834	ANKRD835	ANKRD836	ANKRD837	ANKRD838	ANKRD839	ANKRD840	ANKRD841	ANKRD842	ANKRD843	ANKRD844	ANKRD845	ANKRD846	ANKRD847	ANKRD848	ANKRD849	ANKRD850	ANKRD851	ANKRD852	ANKRD853	ANKRD854	ANKRD855	ANKRD856	ANKRD857	ANKRD858	ANKRD859	ANKRD860	ANKRD861	ANKRD862	ANKRD863	ANKRD864	ANKRD865	ANKRD866	ANKRD867	ANKRD868	ANKRD869	ANKRD870	ANKRD871	ANKRD872	ANKRD873	ANKRD874	ANKRD875	ANKRD876	ANKRD877	ANKRD878	ANKRD879	ANKRD880	ANKRD881	ANKRD882	ANKRD883	ANKRD884	ANKRD885	ANKRD886	ANKRD887	ANKRD888	ANKRD889	ANKRD890	ANKRD891	ANKRD892	ANKRD893	ANKRD894	ANKRD895	ANKRD896	ANKRD897	ANKRD898	ANKRD899	ANKRD900	ANKRD901	ANKRD902	ANKRD903	ANKRD904	ANKRD905	ANKRD906	ANKRD907	ANKRD908	ANKRD909	ANKRD910	ANKRD911	ANKRD912	ANKRD913	ANKRD914	ANKRD915	ANKRD916	ANKRD917	ANKRD918	ANKRD919	ANKRD920	ANKRD921	ANKRD922	ANKRD923	ANKRD924	ANKRD925	ANKRD926	ANKRD927	ANKRD928	ANKRD929	ANKRD930	ANKRD931	ANKRD932	ANKRD933	ANKRD934	ANKRD935	ANKRD936	ANKRD937	ANKRD938	ANKRD939	ANKRD940	ANKRD941	ANKRD942	ANKRD943	ANKRD944	ANKRD945	ANKRD946	ANKRD947	ANKRD948	ANKRD949	ANKRD950	ANKRD951	ANKRD952	ANKRD953	ANKRD954	ANKRD955	ANKRD956	ANKRD957	ANKRD958	ANKRD959	ANKRD960	ANKRD961	ANKRD962	ANKRD963	ANKRD964	ANKRD965	ANKRD966	ANKRD967	ANKRD968	ANKRD969	ANKRD970	ANKRD971	ANKRD972	ANKRD973	ANKRD974	ANKRD975	ANKRD976	ANKRD977	ANKRD978	ANKRD979	ANKRD980	ANKRD981	ANKRD982	ANKRD983	ANKRD984	ANKRD985	ANKRD986	ANKRD987	ANKRD988	ANKRD989	ANKRD990	ANKRD991	ANKRD992	ANKRD993	ANKRD994	ANKRD995	ANKRD996	ANKRD997	ANKRD998	ANKRD999	ANKRD1000
------	---------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	-----------



がん細胞の324個の遺伝子の
キズの有無を調べる



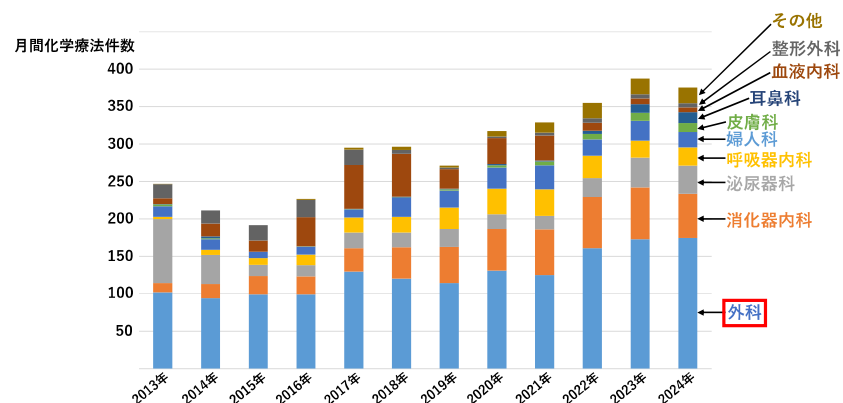
キズついた遺伝子に適合する
治療薬がないか調べる

3 経営改善

	項 目	目 標
1	入院化学療法の推進	初回化学療法を原則入院で
2	在院日数の適正化	DPC入院期間Ⅲ(長期入院)の発生の抑制



1ヵ月あたり外来化学療法件数の年次推移



81



4 専攻医の確保・教育研修

	項 目	目 標
1	教育体制の強化による専攻の確保	外科に興味のある研修医には積極的に手術を経験させ、 外科志望の専攻医を毎年少なくとも1人確保

82



歴代外科専攻医



初代：茂野佐弓 医師 (女性)



2代目：古橋広樹 医師 (男性)



3代目：村田結衣 医師 (女性)

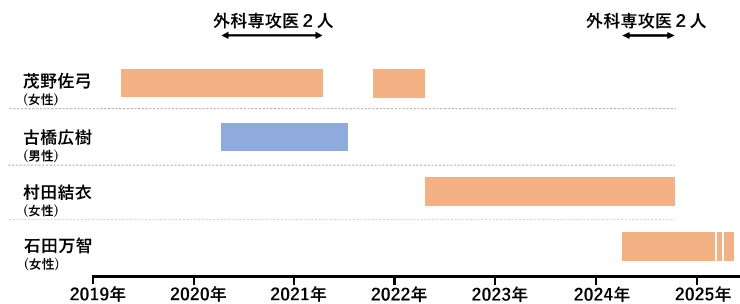


4代目：石田万智 医師 (女性)

83



外科 専攻医 在職期間



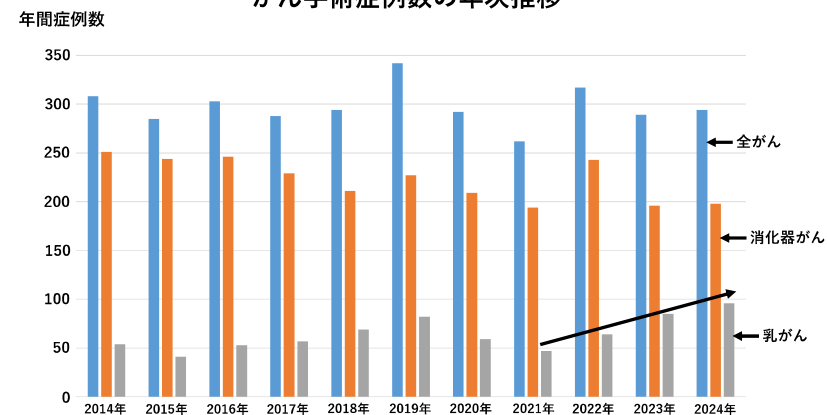
84

外科 専攻医 手術執刀数

	初代	2代目	3代目	4代目
外科専攻医 (在職期間)	茂野佐弓(女性) (30ヵ月)	古橋広樹(男性) (15ヵ月)	村田結衣(女性) (30ヵ月)	石田万智(女性) (15ヵ月)
・全手術	533	188	509	179
・全身麻酔手術	353	114	382	120
腹腔鏡手術	169	62	208	53
ロボット手術	0	0	3	1

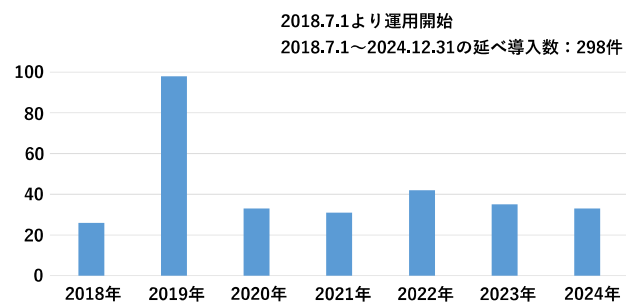
85

がん手術症例数の年次推移

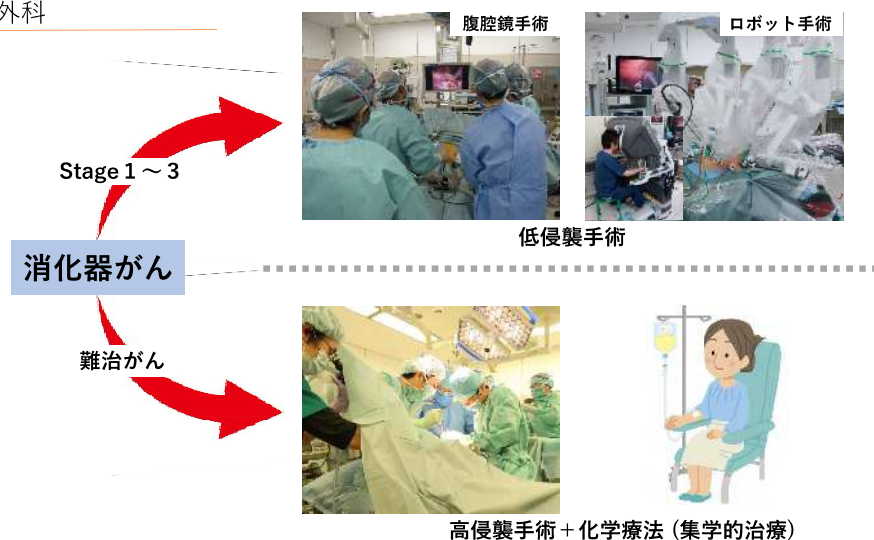


86

乳がん 地域連携パス 導入症例年次推移



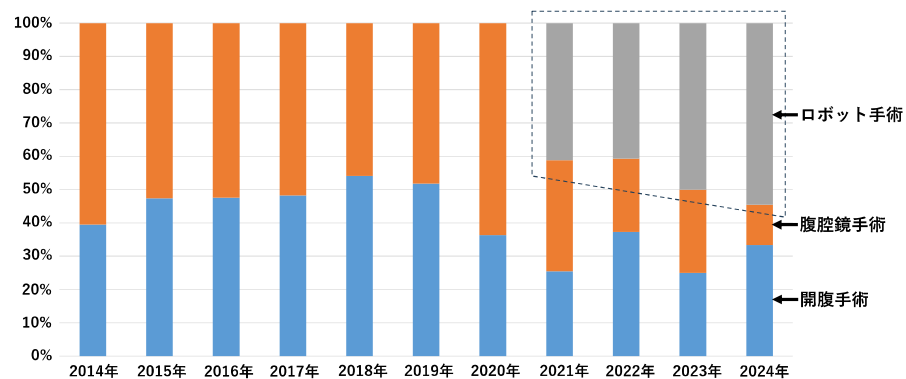
87



88



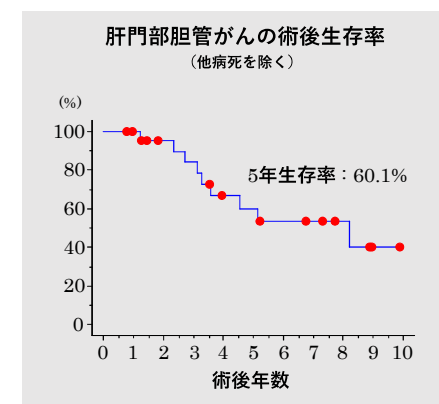
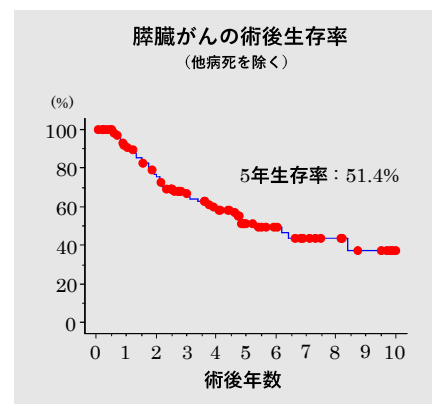
直腸がんに対する低侵襲手術の年次推移



89



難治がん手術後の長期成績



90



決 意

- 毎年最低1人の外科専攻医確保。
- 外科専攻医のロボット手術手技習得。
- 低侵襲手術、難治がんに対する高侵襲手術・集学的治療の短期・長期成績維持。
- 中東遠医療圏におけるがんゲノム医療の推進。

91



令和7年度 診療科目目標発表



整形外科 Orthopedic Surgery

93

整形外科



	氏 名	役 職
1	浦崎 哲哉	副院長 兼 整形外科（統括）診療部長 兼 リウマチ科診療部長 兼 脊椎・脊髄センター長 専門：脊椎
2	石井 久雄	院長補佐 兼 整形外科診療部長 兼 手外科・外傷再建センター長 専門：手外科、外傷一般
3	落合 聡史	部長 専門：股関節
4	仲野 隆彦	部長 専門：手外科、外傷一般
5	岩瀬 賢哉	医長 専門：膝・肩・スポーツ、外傷一般
6	大島 和馬	医長 専門：脊椎
7	藤田 貴子	医員 専攻医
8	北澤 謙太郎	医員 専攻医
9	渥美 元英	医員 専攻医

94

整形外科

令和7年度 目標

1 診療目標

項 目	R2	R3	R4	R5	R6	R7目標
1日あたり入院患者数（人）	41.8	49.5	58.3	52.0	52.4	60
新入院患者数（人／月）	88	102	100	104	102	110
手術件数（人／月）	85	100	99	102	101	110
外来初診患者数（人／月）	105	106	119	110	112	120
紹介患者数（人／月）	144	165	166	154	160	160
逆紹介患者数（人／月）	141	131	130	146	145	160

95

整形外科

令和7年度 目標

2 医療の質向上 入院、手術を中心とした急性期診療機能の強化

	項目	目標
1	地域医療体制の強化	中東遠地域の方へ急性期診療を提供する体制作り

3 経営改善

	項目	目標
1	手術件数の増加	1,300件／年
2	紹介件数の増加	2,000件／年
3	逆紹介件数の増加	2,000件／年

96



4 専攻医の確保・教育研修

	項 目	目 標
1	教育体制の強化と専攻医の確保	1人以上の整形外科専攻医の確保 教育体制の強化と教育レベルの明確化

令和8年度より
整形外科専門研修基幹プログラム
開始予定

97



当科の特徴

診療の3本柱



①脊椎脊髄センター



②手外科センター



③人工関節手術



令和7年7月より
手外科・外傷再建センター

98



手外科・外傷再建センター

- 従来の手外科センターに新たに仲野隆彦医師を加え、「手外科・外傷再建センター」として生まれ変わります
- これまでの「手の専門治療」に加えて、治療の難しい「手足の大きなけが」にも対応できるようになりました

対象疾患

- ・手指切断等の重度外傷を含めたほぼすべての手外科疾患
 - ・皮膚・軟部組織欠損
 - ・難治性骨折や感染性偽関節
- など

中東遠地域のみならず、広く重度四肢外傷の患者さんの治療を当院で行います！

ご紹介を是非お願いいたします

9
9



決 意

**整形外科疾患、特に四肢外傷治療において
静岡県の中心的役割を担うとともに
将来のリーダーとなる整形外科医を育成する**

100



令和7年度 診療科目目標発表



脳神経外科

Neurosurgery

101



脳神経外科

	氏 名	役 職
1	鳥飼 武司	副医務局長 兼 脳神経外科（統括）診療部長 兼 脳血管内治療センター長 兼 ICU・CCUセンター副センター長
2	松尾 州佐久	診療部長 兼 脳血管内治療センター副センター長
3	北村 拓海	部長
4	林 裕樹	医長
5	妹尾 隆星	医員 兼 救急科医員

102



脳神経外科

令和7年度 目標

1 診療目標

項 目	R2	R3	R4	R5	R6	R7目標
1日あたり入院患者数（人）	32.0	36.6	32.4	32.8	40.9	45.0
新入院患者数（人／月）	55	63	53	55	67	65
手術件数（件／月）	12	13	15	13	18	15
外来初診患者数（人／月）	61	58	53	50	58	55
紹介患者数（人／月）	69	68	47	50	56	55
逆紹介患者数（人／月）	77	68	50	56	53	55

103



脳神経外科

令和7年度 目標

2 医療の質向上 診療ガイドラインに基づく治療の徹底

	項 目	目 標
1	24時間365日体制の確保	断らない、疲弊しない、診療体制の確保
2	診療技術	個人およびチームとして高める
3	地域連携の更なる強化	地域から広く率直な意見を求めます。

104



3 経営改善

	項 目	目 標
1	効率化（無駄をなくす）	
2	手術症例の増加	

105



4 専攻医の確保・教育研修

研修医・専攻医への教育強化

	項 目	目 標
1	脳神経外科のやりがい	
2	大学医局との連携	

106



R6診療実績(手術)

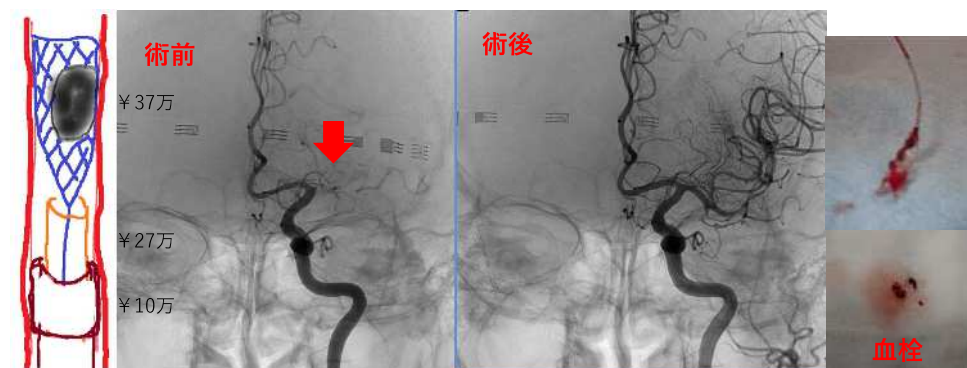
疾患	件数	疾患	件数
脳動脈瘤	38	変形性脊椎症	6
脳梗塞	↑ 23	水頭症	24
脳腫瘍	19	頸動脈狭窄症	7
慢性硬膜下血腫	90	全手術数	↑ 267

➡ 地域の脳外科として身の丈に合った標準的診療

107



症例提示(血栓回収)

言葉が出ない
歩けない自立 (mRS 0-2)
30% vs 44%話ができる
歩ける

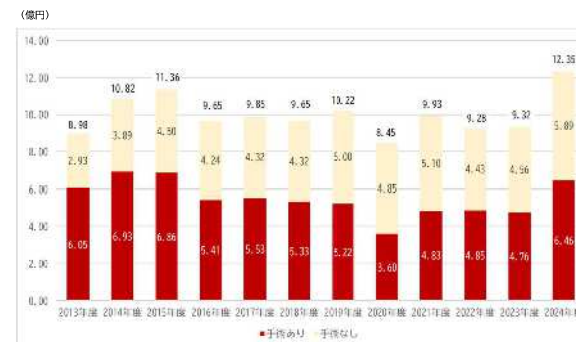
108

地域とともに

予防	啓発活動
早期発見・早期治療	地域連携
術後の健康	安全な手術
脳神経外科としての収益	適切な手術適応判断 高額診療の自覚

109

診療実績



直面する課題

内科治療を脳外科がすべきか？

収益の半分は内科治療。

外科技術の習得に時間を使いたい

働き方改革

➡ 地域に根付いた脳神経外科の姿を模索

110

決意

個人そしてチームとして
診療技術をさらに高め
脳卒中治療をはじめとする
地域医療に貢献します

111



令和7年度 診療科目目標発表



小児科 Pediatrics

113

小児科

	氏 名	役 職
1	岩島 寛	副院長 兼 小児科（統括）診療部長 兼 臨床研究管理室長
2	矢田 宗一郎	診療部長
3	關 圭吾	診療部長
4	早野 聡	診療部長 兼 臨床研修センター副センター長 兼 中東遠アレルギー疾患研究センター副センター長
5	山口 慎	部長
6	早川 晶也	部長
7	伊藤 裕	部長
8	古澤 由梨	医長
9	本橋 康弘	医長
10	猿渡 ちさと	医長

114



小児科

令和7年度 目標

1 診療目標

項 目	R2	R3	R4	R5	R6	R7目標
1日あたり入院患者数（人）	13.0	13.1	12.4	11.1	13.9	15.0
新入院患者数（人／月）	75	75	70	73	87	90.0
外来初診患者数（人／月）	116	76	126	122	144	150.0
紹介患者数（人／月）	104	132	120	133	170	150.0
逆紹介患者数（人／月）	20	27	40	49	49	50.0

115



小児科

令和7年度 目標

2 医療の質向上

- ・あらゆる小児疾患に対する診療体制の充実
- ・専門施設との連携強化

	項 目	目 標
1	小児入院医療体制の強化	体制強化による小児入院医療管理料3の取得 養育支援体制加算の取得
2	行政や施設との連携強化	地域医療的ケア児支援センター設置準備 小児生活習慣病予防検診への貢献
3	小児発達支援	5歳児健診についての設置準備

116



3 経営改善

	項 目	目 標
1	地域医療的ケア児支援センター設置事業	設置認可に向けて取り組む
2	学童生活習慣病健診	静岡県下で小笠地区における健診活動を啓発し家族性高コレステロール血症患者について静岡県の拠点病院となる

117



4 専攻医の確保・教育研修

- ・研修教育の強化と研修医の確保
- ・当院出身小児科専門医の育成

	項 目	目 標
1	初期研修医の教育強化	月10例程度の受け持ち
2	後期研修医の教育強化	学会での症例報告、論文作成、専門医育成
3	教育体制の強化と研修医の確保	教育体制の強化と教育レベルの明確化

118



中東遠地区医療的ケア児支援について

1 県立特別支援学校医療的ケア児数（令和5年5月1日現在）

	人数	学校数
医療的ケア児数	195人	23校
人工呼吸器装着児	13人	5校

中東遠地区特別支援学校調査による医療的ケア児の推移



令和5年度	・中央特別支援学校での実施。 ・西部特別支援学校、東部特別支援学校で学校体制を確立し実施する。 ・要保護児との連携、協力体制を更に改善、渡井特別支援学校、藤枝特別支援学校で学校体制を整備し実施する。
-------	---

3 渡井特別支援学校での取組
（1）渡井特別支援学校の医療的ケア児数

学級	医療的ケア児数	人工呼吸器装着児数
小学部	7	1
中学部	2	0
高等部	1	0
計	10	1

増加傾向！

119



中東遠地区の小児科医師不足深刻！



資料 図表 22-13 専門医数（総合内科、小児科、産婦人科）

二次医療圏	総合内科 専門医数	県内 人口 10万 当り	医療従 業士数 +空床は 標準値	小児科 専門医数	県内 人口 10万 当り	医療従 業士数 +空床は 標準値	産婦人科 専門医数	県内 人口 10万 当り	医療従 業士数 +空床は 標準値
全国	33,119	28.3	(12.4)	14,168	11.2	(4.9)	11,602	9.2	(4.3)
静岡県	767	2.3	21.1	46	2.6	10.0	48	2.8	7.9
浜北	5	1%	8.4	26	1	0%	16.7	20	4
浜海伊豆	15	2%	15.0	61	4	1%	4.0	25	6
数東田方	123	16%	19.2	44	47	13%	7.3	42	38
富士	39	5%	10.4	37	20	5%	5.4	38	21
静岡	149	19%	21.5	45	132	36%	19.0	66	60
志太博伊	78	10%	17.2	43	22	6%	4.9	37	15
中東遠	88	11%	18.9	44	25	7%	5.6	38	31
西部	270	35%	31.8	54	112	31%	13.2	54	93

※ 1. 数値は平成27年度末のデータによる。2. 医療従事者数に空床数を加えた標準値を示す。

出 典 令和3年度版「資料医療・医療機関調査」厚生労働省、令和3年12月

120



区医療的ケア児支援センター設置準備



事業内容

- (1) 医ケア児等の協議の場の設置 医ケア児等の支援に携わる保健、医療、福祉、教育、子育て等の各分野の関係機関及び当事者団体で構成される協議の場を設置する。協議の場で、地域の現状把握・分析等、地域全体の医ケア児等とその家族が直面する課題及びその対応策の検討を行う。
- (2) 医ケア児等の相談体制の整備 医ケア児等コーディネーターを配置し、以下①②を実施する。
 - ①医ケア児とその家族に対し保健、医療、福祉等の必要なサービスを紹介し関係機関とつなぐ
 - ②県医ケアセンターや他機関に配属された医ケアコーディネーター間及び相談支援専門員と情報交換や症例の検討を行う

121



1 これまでの小児科としての取り組み！

- (1) 掛川市、袋井市教育委員会医療的ケア児支援運営協議会および掛川市袋井市特別支援学校における医療的ケア児支援に携わり、地域における相談窓口としての活動。また啓蒙活動に取り組む
- (2) 医ケア児等コーディネーターを配置。

122



2 ご留意いただきたい点

1 に記載の国庫補助事業について、市町から委託を受ける形で実施することとなります。よって、**市町当局において委託事業の立案、財源の確保等を行い、予算案を市町議会に上程し、議会の議決を得る必要があります。**市町の動きにもよりますが、これらの対応には一定の時間を要する見込みです。

地域の医療的ケア児とご家族が安心して暮らせる仕組みを地域全体で支えるために支援センターが必要です！

123



決 意

地域の小児科医療における未来を支えるために、議会・行政のご理解とご協力を何卒よろしくお願いいたします。

124



令和7年度 診療科目目標発表



産婦人科

Obstetrics and Gynecology

125

産婦人科



	氏 名	役 職
1	村上 裕介	院長補佐 兼 産婦人科(統括)診療部長 兼 手術センター副センター長
2	田中 晶	診療部長 兼 がん総合診療センター診療部長
3	戒野 志織	医長
4	大嶽 宙士	医長
5	窪川 瑞生	医員

126



産婦人科

令和7年度 目標

1 診療目標

項 目	R2	R3	R4	R5	R6	R7目標
1日あたり入院患者数(人)	19.8	21.2	19.7	18.8	17.5	20.0
新入院患者数(人/月)	75	88	82	80	74	80
手術件数(件/月)	32	39	39	37	37	40
分娩件数(件/月)	33	32	30	26	24	20
外来初診患者数(人/月)	49	52	52	58	47	50
紹介患者数(人/月)	99	98	93	95	81	80
逆紹介患者数(人/月)	19	21	20	21	16	20

127



産婦人科

令和7年度 目標

2 医療の質向上 より専門性の高い医療

	項 目	目 標
1	産科医療	正常妊娠からハイリスク妊娠までの取り扱い 母体緊急搬送の全例受け入れ 超緊急帝王切開時の体制の維持(グレードA帝王切開 シミュレーションを年2~3回実施)
2	がん診療	高度な技術を要する悪性腫瘍手術から終末期医療まで 取り組む
3	内視鏡手術	良性腫瘍は基本的に腹腔鏡手術 早期子宮体がんはロボット支援下子宮悪性腫瘍手術 早期子宮頸がんの腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術の保険 適応をめざす(あと1例) 子宮内膜ポリープと子宮粘膜下筋腫に対して導入した 子宮鏡手術の増加



3 経営改善

	項 目	目 標
1	手術	低侵襲手術の増加、特に子宮体がんのロボット手術 昨年度より子宮鏡手術を開始した
2	化学療法	新規レジメンの早期適応 副作用マネージメントのために、適切に入院治療も行う がん遺伝子パネル検査

129



4 専攻医の確保・教育研修

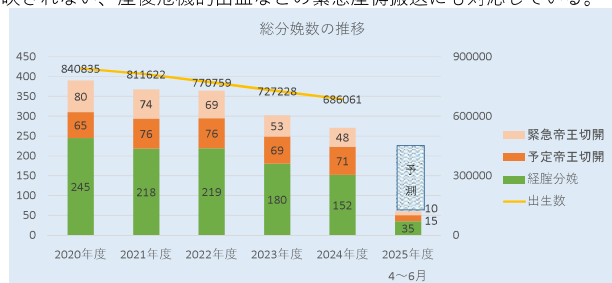
	項 目	目 標
1	回診、症例カンファレンス	外来および入院患者の情報を共有し、治療 方針を明確にし、専攻医へ教育をする
2	産婦人科専門医に続く、 サブスペシャリティの取得	周産期専門医、婦人科腫瘍専門医、内視鏡 技術認定医を取得可能な修練施設である

130



産科の特徴

- 今後も分娩数は低下することが予測される。
ハイリスク妊婦（高齢、高度不妊治療後妊娠、合併症、患者社会的背景）、外国人が多くを占める。
- 総分娩数は低下しているが、帝王切開率は4割程度で推移している。
特に経膈分娩数の減少により、若手医師の分娩手技習得が困難となってきた。
助産師のやりがいにも影響している。
- 分娩数に反映されない、産後危機的出血などの緊急産褥搬送にも対応している。



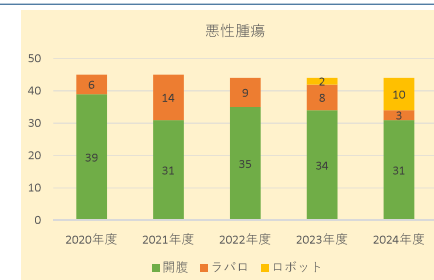
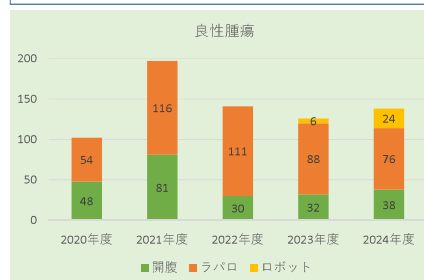
131



婦人科の特徴

- 日本婦人科腫瘍学会修練施設Aを取得し、婦人科腫瘍専門医2名在籍する。
（静岡県内に修練施設Aは5施設のみ がんセンター、県立総合、聖隷浜松、浜松医大）
- 日本産科婦人科内視鏡学会認定研修施設（県内13施設）を取得し、内視鏡技術認定医1名が在籍する。
今年度よりロボット手術認定研修施設（県内7施設）も取得した。

⇒ 当科では悪性腫瘍に対する内視鏡手術の実施が可能な施設である。



132



- 周産期医療の継続については、当科だけでなく、中東遠医療圏全体で検討する課題である。
 - 昨年度より子宮鏡手術を開始した。
粘膜下子宮筋腫に対し、より低侵襲な手術が可能になる。
 - 当科は婦人科腫瘍学会修練施設Aであることから、今後は悪性腫瘍治療をより重点的に行っていく。
 - ・がんの根治を目指した初回治療はもちろん、再発がんにも積極的な治療を行う。
 - ・早期がんではロボット手術を含めた低侵襲手術をすすめる。
 - ・化学療法は従来の抗がん剤だけでなく、分子標的薬や免疫チェックポイント阻害薬、抗体薬物複合体といった新規薬剤も導入していくと共に、その副作用への対応にも注意をする。
 - ・妊孕性温存や高齢者、社会的背景が複雑な患者などには、ガイドラインを基本に、個々の特性に応じた治療を提供する。
- ⇒ 標準的ながん治療を、ご自宅、ご家族の近くにしながら、安心して受けていただく。



決 意

地域住民に安全な産科婦人科医療を
提供できるように精進します。



令和7年度 診療科目目標発表



泌尿器科 Urology

137

泌尿器科

	氏 名	役 職	卒年度	備考
1	松本 力哉	診療部長	H14年	泌尿器科専門医・指導医 ロボット支援手術ブロック認定医
2	佐藤 亮	医長	H27年	泌尿器科専門医 ロボット支援手術認定医
3	松永 悠	医長	H31年	ロボット支援手術認定医
4	西尾 哲治	医員	R3年	ロボット支援手術認定医
5	吉見 侑大	医員 兼 救急科医員	R5年	



泌尿器科の特色はチームワークです。
若手の診療を上級医が支えながら、
フットワーク軽く、診療に対応する
事を心がけています。

138

泌尿器科

令和7年度 目標

1 診療目標

項 目	R2	R3	R4	R5	R6	R7目標
1日あたり入院患者数（人）	16.3	16.3	17.2	19.0	22.8	25.0
新入院患者数（人／月）	59	65	69	74	83	90
手術件数（件／月）	43	46	49	49	54	60
ロボット支援手術件数（月／年）	37	36	37	48	54	60
外来初診患者数（人／月）	42	44	45	44	47	50
紹介患者数（人／月）	70	79	79	79	80	80
逆紹介患者数（人／月）	41	38	39	50	63	60

139

泌尿器科

令和7年度 目標

2 医療の質向上 手術の安全性向上と地域連携強化による診療体制の充実

	項 目	目 標
1	ロボット支援手術の安全性向上	事故0件
2	地域連携の強化	紹介件数 960件／年 逆紹介件数 720件／年

3 経営改善

	項 目	目 標
1	入院患者数の増加	1日あたり入院患者数25人
2	入院診療単価の向上	全手術患者のDPCⅡ期での退院

140

4 専攻医の確保・教育研修 後期研修医の確保と腹腔鏡手術技術の向上

	項 目	目 標
1	泌尿器腹腔鏡技術認定医の育成	数少ない手術件数で申請
2	ロボット支援手術プロクター取得	新規プロクター申請
3	専攻医もしくは後期研修医の確保	教育体制の強化と教育レベルの明確化

141

ロボット支援手術のさらなる拡大

ロボット支援前立腺全摘除術・・・導入から約8年で約300件

ロボット支援腎摘除術・・・導入から約3年で約30件

→さらなる症例数の追加



● 今後の目標は下記導入

- ① ロボット支援腎部分切除術 (Robot assisted partial nephrectomy:RAPN)
- ② ロボット支援腎盂形成術 (Robot assisted pyeloplasty:RAPP)
- ③ ロボット支援膀胱全摘除術 (Robot assisted radical cystectomy:RARC)

142

ロボット支援手術システムも各社より開発・競争本格化

川崎重工が開発した純国産手術支援ロボット



Copyright © Mediaroid Corporation All Rights Reserved. © Tezuka Productions

さすが国産！価格はダヴィンチの約半値！！

143

決 意

手術全般を安全に行い、
ロボット支援手術の普及に努め、
患者負担の軽減や手術患者増加を目指す。

144



令和7年度 診療科目目標発表



皮膚科・皮膚腫瘍科

Dermatology ▪ Skin Oncology

145



皮膚科・皮膚腫瘍科



	氏 名	役 職	専門医
1	大塚 正樹	(統括) 診療部長	皮膚科専門医, 皮膚悪性腫瘍指導専門医
2	戸倉 新樹	参与 兼 診療部長 兼 中東遠アレルギー疾患研究センター長	皮膚科専門医
3	森下 ナオミ	部長	皮膚科専門医
4	柚木 菜里那	医長	
5	池羽 杏菜	非常勤医師	形成外科専門医

146



皮膚科・皮膚腫瘍科

令和7年度 目標

1 診療目標

項 目	R2	R3	R4	R5	R6	R7目標
1日あたり入院患者数 (人)	6.3	7.5	6.8	8.7	9.9	10.0
新入院患者数 (人/月)	21	23	21	22	25	25
手術件数 (件/月)	23	25	29	24	28	30
紹介患者数 (人/月)	86	101	104	103	94	100

147



皮膚科・皮膚腫瘍科

令和7年度 目標

2 医療の質向上

	項 目	目 標
1	皮膚科診療の習熟	幅広い皮膚疾患の治療に精通する。
2	アトピー性皮膚炎、乾癬など、炎症性皮膚疾患に対する薬物療法の強化	特に治療に難渋する症例を積極的に受け入れ、基幹病院ならではの治療を提供する。
3	皮膚科領域手術の拡大	境界領域皮膚がん(眼瞼、口唇、陰股部)、良性軟部腫瘍に対する手術症例の増加。
4	がん薬物療法の強化	圏域外病院へ周知し、薬物療法症例の増加。

148

3 経営改善

	項 目	目 標
1	皮膚外科領域の強化	手術件数過去最多の更新 最多手術件数: R4 346件、最多全麻件数: R6 64件
2	レーザー外来の新設	周辺医療機関へ周知し、症例の獲得

149

4 専攻医の確保・教育研修

	項 目	目 標
1	専攻医の確保	皮膚科領域に関する教育指導を充実させ、 皮膚科志望医師を毎年1名確保
2	教育研修	年4回以上の学会・研究会に参加、 年3回以上の発表

150

5 当科の特徴

広い皮膚科の臨床を楽しく学び、知的でユーモアに溢れた診療科

皮膚科専門研修基幹施設 (大学病院以外では全国11施設)

- ・内科的皮膚科に強い
アレルギー疾患研究センターを運営しており、
数々の皮膚アレルギー疾患に対応可能。
- ・外科的皮膚科に強い
手術件数は県内有数、扱う疾患・領域は全国有数。

令和6年度学術業績

- ・論文発表実績 9編 (うち英語4編)
- ・学会/研究会発表実績 41件

151

6 今後取り組んでいきたいこと

皮膚科研修基幹施設として「中東遠ブランド」の確立

魅力ある研修プログラムで安定的に専攻医を受け入れ、
教育の場を提供し、育成し、さらに将来に対しての展望
を与えるよう誘導する。

静岡県における皮膚科診療の中心施設となる

- ・皮膚疾患で困ったら「中東遠」
- ・皮膚外科といえば「中東遠」

県内皮膚科医における認知度は既に確立されている。
他科開業の先生方や市民の皆様へも認知いただけるよう、アピールを行う。

152

7 地域のために貢献できること

中東遠医療圏における皮膚科医師不足の解消

当科専攻医が専門医を取得し、皮膚科医として成長することで中長期的に継続して中東遠医療圏の皮膚科医療に貢献できる。



決意

全国有数の皮膚科基幹施設として
皮膚科診療の質を高め、治療成績を向上させ、
患者ニーズに応えていきます。



令和7年度 診療科目目標発表



眼科 Ophthalmology

157

眼科



	氏 名	役 職
1	堀田 喜裕	副院長 兼 臨床検査科診療部長 兼 がん総合診療センター副センター長 兼 がんゲノム診療センター長
2	宇佐美 貴寛	部長（診療科長） 兼 中東遠アレルギー疾患研究センター部長
3	田中 彩乃	医長
4	山田 亮佑	医長
5	山下 理実	医長

158



眼科

令和7年度 目標

1 診療目標

項 目	R2	R3	R4	R5	R6	R7目標
1日あたり入院患者数（人）	7.8	9.4	9.9	8.7	8.5	9.0
新入院患者数（人／月）	69	82	100	102	95	100
手術件数（件／月）	104	137	155	160	165	170
外来初診患者数（人／月）	59	73	75	76	80	85
紹介患者数（人／月）	73	97	106	105	108	110
逆紹介患者数（人／月）	44	51	63	64	57	80

159



眼科

令和7年度 目標

2 医療の質向上 診療の効率化と質の向上

	項 目	目 標
1	網膜硝子体手術の受け入れ維持	緊急性の高い疾患に早期に加療いたします。難疾患も安全に加療できるよう、最新の技術を取り入れ続けます。
2	低侵襲緑内障手術の増加	デバイスの進化が続いており、術式も増えています。これまでの実績から、最新デバイスも他施設に先駆けて導入出来ています。使い分けることで最適な治療を検討していきます。
3	専門外来の開設	堀田医師による網膜変性外来（毎週） 浜医准教授 彦谷医師による斜視外来（月1回） 専門性の高い外来診療が可能になりました。

160



3 経営改善

	項 目	目 標
1	無駄のない診療体制	外来・手術への適切な人員配置で時間内の効率を上げる
2	手術患者の受け入れ継続	1日当たりの手術件数を無理なく増やし、適切な期間での受け入れを継続する

161



4 専攻医の確保・教育研修 数年後に必要となることへの投資

	項 目	目 標
1	研修医の確保と教育の充実	ローテートした研修医への個別指導
2	教育体制の強化と研修医の確保	教育体制の強化と教育レベルの明確化

162



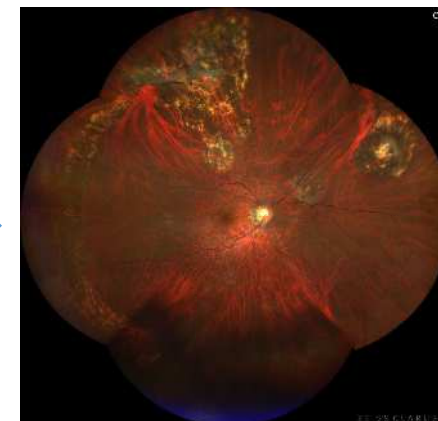
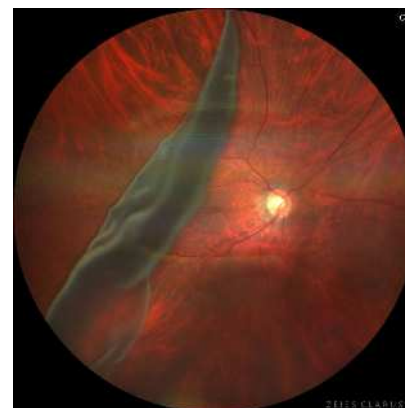
当科で行っている手術の一例を紹介します。

- ①網膜剥離の術前、術後
- ②低侵襲緑内障手術の実際
- ③重症緑内障へのインプラント

163



①網膜剥離の術前、術後



164



②低侵襲緑内障手術の実際：iStent inject w

当科で最も行っている緑内障手術
白内障手術と同時に施行する

線維柱帯（眼内の水の出口）に差し込むことで流出を促して眼圧を下げる
実績も蓄積したため、今年度の日本緑内障学会で長期成績を報告する予定
類似手術としてHydrusを今月から導入予定

165



②低侵襲緑内障手術の実際：iStent inject w



②低侵襲緑内障手術の実際：プリザーフロマイクロシャント

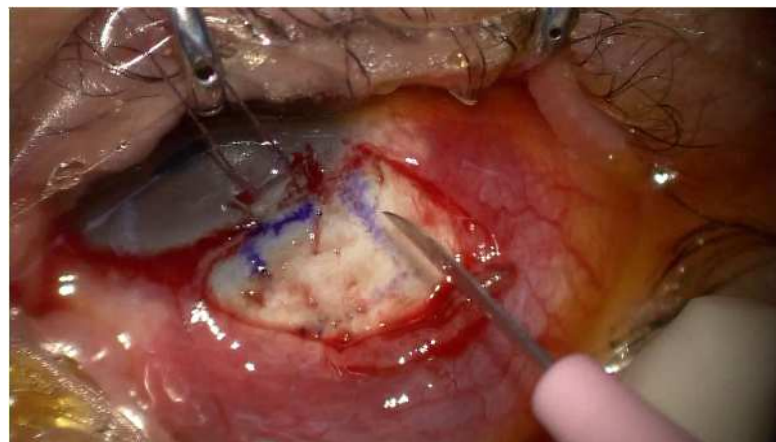
従来の流出路の改善では十分に眼圧が下がらないと予想する場合、別経路に
水の流出路を作成するトラベクレクトミーを行う

iStentとは目的が違っており、トラベクレクトミーよりも手技の簡便さがある
当科でも症例により使い分けで取り入れている

167

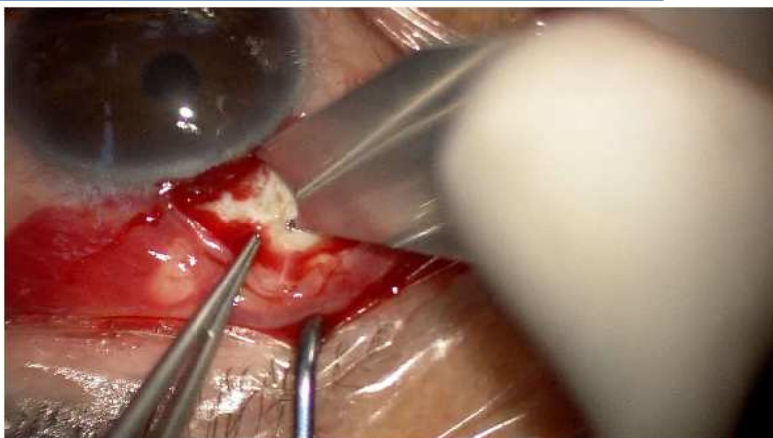


②低侵襲緑内障手術の実際：従来のトラベクレクトミー





②低侵襲緑内障手術の実際：プリザーフロマイクロシャント



③重症緑内障へのインプラント：Ahmed glaucoma valve



決意

中東遠地域の基幹病院として、
地域の先生方と連携を取り、
医療の質向上に努めていきたい
と思います。



令和7年度 診療科目目標発表



耳鼻いんこう科 Otorhinolaryngology

173



耳鼻いんこう科



	氏 名	役 職
1	増田 守	医長（診療科長）
2	池羽 宇宙	医長 兼 臨床研修センター医長
3	竹内 実喜子	医員
4	松下 賢悟	医員 兼 救急科医員

174



耳鼻いんこう科

令和7年度 目標

1 診療目標

項 目	R2	R3	R4	R5	R6	R7目標
1日あたり入院患者数（人）	12.3	9.9	9.8	10.5	11.1	14.0
新入院患者数（人／月）	45	37	36	42	49	52
手術件数（件／月）	21	16	22	24	32	34
外来初診患者数（人／月）	86.4	77.6	99.5	118.8	112.9	115
紹介患者数（人／月）	102	110	129	146	144	145
逆紹介患者数（人／月）	27	25	32	42	32	35

175



耳鼻いんこう科

令和7年度 目標

2 医療の質向上

	項 目	目 標
1	新たに導入した手術器械や検査の増加	鼻副鼻腔手術における、手術支援機器、鉗子類の充実
2	新たに導入した治療法	難治性副鼻腔炎に対する生物学的製剤の導入

176

3 経営改善

	項 目	目 標
1	手術件数の増加	手術技術向上、時間短縮による手術件数の増加 (34件/月)
2	外来枠の調整	手術日・外来日の外来受診枠を調整して効率の 良い外来診療、手術枠確保

177

4 専攻医の確保・教育研修

	項 目	目 標
1	大学と連携した教育体制の強化	専門医、専攻医の確保、育成
2	専攻医指導体制の強化	学会発表、論文作成

178

全身麻酔症例数 (2024年1月～12月) 339例

耳科手術	60件
鼓膜チューブ挿入術	36件
先天性耳瘻管摘出術	7件
鼓膜切開術	15件
外耳道腫瘍摘出術	2件
鼻科手術	243件
内視鏡下鼻・副鼻腔手術	108件
鼻中隔矯正術	74件
鼻甲介切除手術	35件
顎・顔面骨折整復術	16件
鼻・副鼻腔良性腫瘍摘出術	8件
下鼻甲粘膜レーザー焼灼術	1件
経鼻腔的翼突管神経切断術	1件
口腔咽喉頭手術	294件
扁桃摘出術	192件
口蓋扁桃摘出術	63件
舌・口腔・咽喉腫瘍摘出術	16件
口蓋垂・軟口蓋形成術	1件
舌・口腔良性腫瘍摘出術	5件
舌・口腔悪性腫瘍摘出術	3件
咽喉頭良性腫瘍摘出術	5件
咽喉頭悪性腫瘍摘出術	2件
喉頭微細手術	18件
頬・口唇・舌小帯形成手術	1件
口唇腫瘍摘出術	4件

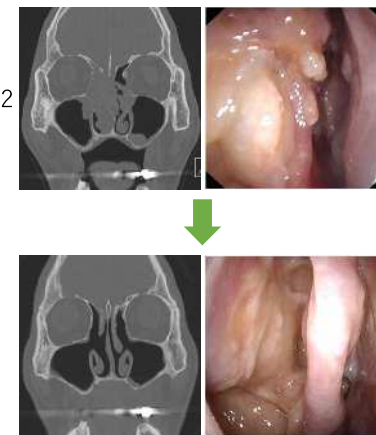
頭頸部手術	84件
頸部郭清術	2件
頸下腺	4件
耳下腺	11件
甲状腺	16件
リンパ節生検術	7件
頸部嚢胞摘出術	13件
顎下腺摘出術	2件
異物摘出術 (外耳・鼻腔・咽頭)	2件
気管切開術	12件
深頸部腫瘍切開術	4件
気管口狭窄拡大術	3件
舌下腺腫瘍摘出術	1件
唾石摘出術	1件
副甲状腺腫瘍過形成手術	4件

179

例) 汎副鼻腔炎、鼻中隔彎曲症、肥厚性鼻炎に対して

両側内視鏡下鼻副鼻腔手術Ⅳ型 32,080点×2
内視鏡下鼻中隔手術Ⅰ型 6,620点
両側内視鏡下鼻腔手術Ⅰ型 (下鼻甲介手術) 7,940点×2
計 86,660点

手術開始-終了 手術時間	病名 術式
09:37 - 11:18 1時間41分	汎副鼻腔炎、鼻中隔彎曲症、肥厚性鼻炎 内視鏡下鼻中隔手術Ⅰ型 (併・軟骨手術) K347-3、両内視鏡下 鼻腔手術Ⅰ型 (下鼻甲介手術) K347-5、両内視鏡下鼻・副鼻腔 手術Ⅳ型 (汎副鼻腔手術)



180

耳鼻いんこう科

手術支援機器、鉗子類の充実により
安全で確実な手術が短時間で可能に



鉗子類



マイクロデブリッター



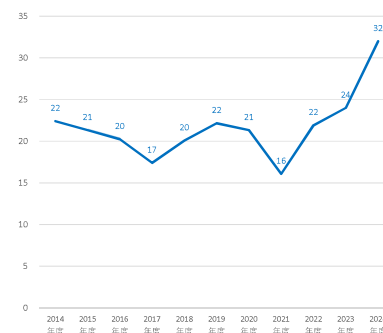
磁場式ナビゲーションシステム



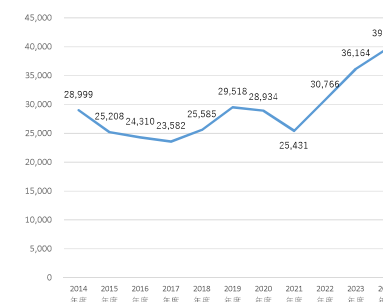
181

耳鼻いんこう科

手術件数の推移（月平均）



診療科総収益（稼働額）



182

耳鼻いんこう科

- ・鼻科手術認可研修施設（県内で3番目）
学会認定施設として安定したレベルの手術を提供可能
- ・国際医療支援
発展途上国の現地医師への手術技術の共有



2025年3月 カンボジア



183

耳鼻いんこう科

決意

**ご紹介いただく開業の先生方との連携を
密にします**

**今後も高度で信頼される医療を患者様に
提供し続けます**

184



令和7年度 診療科目目標発表



放射線診断科 Diagnostic Radiology

185



放射線診断科



	氏 名	役 職
1	石原 雅子	診療部長 兼 PETセンター長 兼 人間ドック・健診センター診療部長
2	池田 隆展	医長

186



放射線診断科

令和7年度 目標

1 診療目標

項 目	R2	R3	R4	R5	R6	R7目標
CT (件／年)	29,900	31,870	28,149	29,519	32,820	33,000 (7,485)
MRI (件／年)	7,946	8,367	8,176	8,036	8,489	9,000 (2,432)
PET-CT (件／年)	500	499	664	629	668	700 (150)
SPECT (件／年)	538	549	602	679	882	800 (235)
IVR (件／年)				2	30	40 (10)

※()内は4-6月時点の件数
※IVR件数は前任者が施行した件数は含みません

187



放射線診断科

令和7年度 目標

2 医療の質向上

	項 目	目 標
1	画像検査	画質向上、検査時間短縮、予約待ち期間短縮
2	画像検査に対する読影業務	重要所見・偶発所見への対応整備
3	IVR（画像下治療）	IVR依頼への対応

188

放射線診療部トピックス



1.5T SIGNA Architect Evo

3T SIGNA Architect

189

放射線診療部トピックス

検査項目	更新前	更新後	短縮時間
脳ルーチン	18:54	14:59	03:55
腰椎	09:50	05:54	03:56
股関節	11:32	07:56	03:36
肩関節	17:18	13:29	03:49
頸部	15:54	09:45	06:09
下垂体	17:50	14:09	03:41
内耳	10:36	07:56	02:40

190

3 経営改善

	項目	目標
1	画像検査	予約枠拡大、画像検査数向上
2	画像検査に対する読影業務	読影効率向上
3	IVR	マンパワー確保、対応する手技拡大

191

4 専攻医の確保・教育研修

	項目	目標
1	放射線科専門医修練施設認定	専攻医受け入れ体制の整備
2	臨床研修指導医資格取得	初期研修医への読影指導、放射線診断科の魅力アピール

192



決 意

最適な画像検査の提供、
画像検査レポート作成を通じて
中東遠地域の医療に貢献します



令和7年度 診療科目目標発表



腫瘍放射線科 Radiation Oncology

197



腫瘍放射線科



	氏 名	役 職
1	平田 真則	部長
2	一戸 建志	医師
3	若林 紘平	非常勤医師
4	池之平 勉	非常勤医師

198



腫瘍放射線科

令和7年度 特徴・特色

腫瘍放射線科の特徴・PR

- あらゆる悪性疾患に加え、一部の良性疾患も治療対象としている。
- 放射線治療単独、あるいは集学的治療のひとつとしての根治的照射から症状緩和照射まで幅広い治療に対応している。
- 強度変調放射線治療（IMRT）や定位放射線治療（STI）を積極的に選択し、より効果的で安全な治療を目指している。
- 放射線治療医2名に加え、がん放射線療法看護認定看護師、2名の医学物理士を擁しており、より充実した診療体制となっている。
- 今後は新しい治療機器2台が導入となる予定で、さらに高精度な治療が提供可能となる。

199



腫瘍放射線科

令和7年度 目標

1 診療目標 治療件数の増加

項 目	R2	R3	R4	R5	R6	R7目標
1日あたり治療患者数（人）	22.3	20.1	19.1	18.5	19.3	25
放射線照射件数（件／月）	482	505	498	508	522	550

200



2 医療の質向上 緩和照射の拡充

	項 目	目 標
1	患者さんに適した緩和照射体制の構築	在宅療養・施設等に移行して、連日の通院や入院が困難な患者さんに対して、準備から実際の治療まで日帰りで行う単回照射を提供する体制を整えたい。
2	適応病態の案内・周知	骨転移だけでなく、通過障害、皮膚転移、肝転移、腫瘍出血など、緩和照射の多様な適応病態について院内外に勉強会・緩和ラウンド等を通じて案内する。

201



3 経営改善

	項 目	目 標
1	高精度放射線治療の割合増加	・緩和症例においても、より低侵襲で有効な治療を目指し強度変調放射線治療を適用する。 ・オリゴ転移や骨転移に対する定位放射線治療を積極的に提示・実施する。
2	治療計画作成の効率化・時短化	・放射線治療計画作成に係る労力や時間を軽減するために、ワークフローやプロトコルをより効率的なものへと整備する。

202



4 専攻医の確保・教育研修

	項 目	目 標
1	教育体制の強化	浜松医大との連携、協力関係の維持
2	研修医の確保	放射線診断科と連携し、希望者は腫瘍放射線科での研修も選択できる体制を整備

203



決 意

1. 新機種2台体制を見据え、高精度照射の件数を増加させ、より安全かつ効果的な治療とするためのプロトコルや効率的なワークフローを構築します。
2. 緩和照射は、院内だけでなく院外へもPRし、アクセシビリティやクオリティの向上・件数増加を目指し、地域の患者さんの治療に貢献します。

204



令和7年度 診療科目目標発表



麻酔科 Anesthesiology

205

麻酔科



	氏 名	役 職
1	内山 智浩	副院長 兼 麻酔科（統括）診療部長 兼 手術センター長 兼 がん総合診療センター副センター長 兼 緩和ケア支援センター長
2	秋永 泰嗣	診療部長
3	山本 洋子	診療部長 兼 がん総合診療センター副センター長
4	姜 乃佳	部長
5	池田 優	医長
6	石野 起也	医員
7	鈴木 みどり	非常勤医師

206

麻酔科

令和7年度 目標

1 診療目標

項 目	R2	R3	R4	R5	R6	R7目標
手術件数（全科）（件／月）	417	473	517	520	540	550
全身麻酔件数（全科）（件／月）	159	167	191	191	204	250

「目標」として順調に増加していますが、

①質を向上させつつタスクシフト・シェアしていくひとつの取り組み
（術後疼痛管理チーム）

②麻酔科専攻医確保のための活動

についてお話ししたいと思います。

207

麻酔科

令和7年度 目標

2 医療の質向上

	項 目	目 標
1	医療安全	3 b 以上の事故「0」 術前評価を的確に行う
2	産科救急への対応	いわゆるGradeA帝王切開対応のシミュレーション、 緊急分娩室での麻酔管理

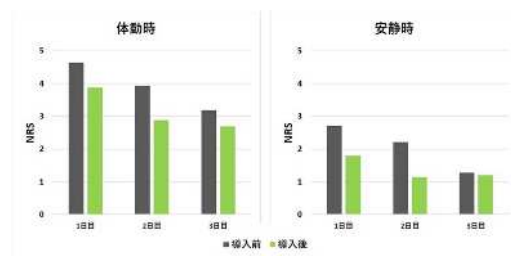
3 経営改善

	項 目	目 標
1	急性期充実体制加算	緊急手術350件／年 以上
2	術後疼痛管理	術後疼痛管理チームを編成し、術後疼痛管理チーム 加算の算定を目指す（後述します）

208

術後疼痛管理チーム加算とは？

- ・手術後の痛みを専門チームが管理した場合に算定できる加算
- ・2022年度診療報酬改定で新設
- ・目的：痛みの軽減と早期回復の支援



吉林大学医学部附属病院HPより

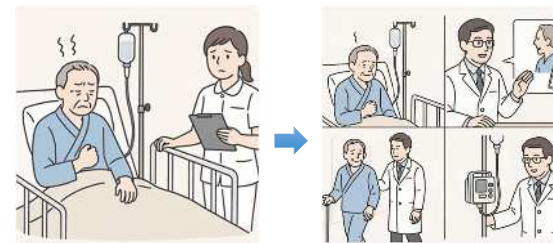
加算の目的と対象

◆目的：

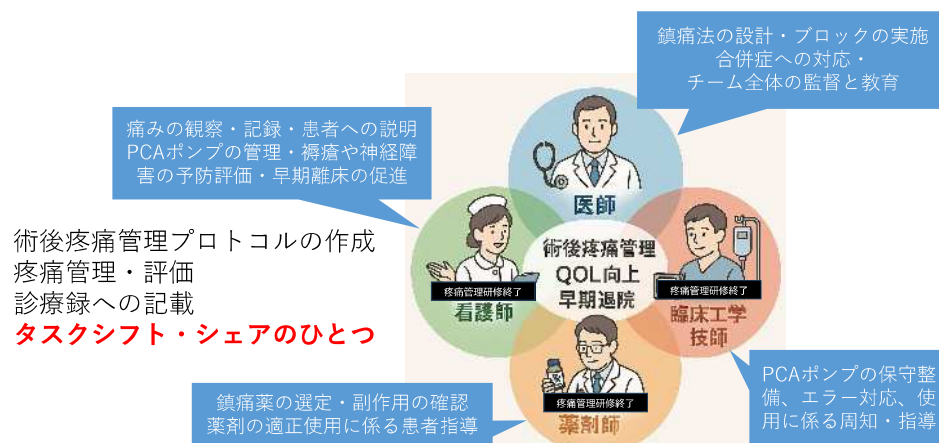
- 痛みの軽減
- 生活の質の向上
- 合併症の予防

◆対象：

- 全身麻酔で手術を受けた方
- 術後の疼痛管理が必要な方



チームの構成と役割



加算の仕組みと要件

- ・加算点数:術後1日目～3日目、1日につき100点(1,000円)

・要件：

- 麻酔科を標榜する医療機関
- 全身麻酔(マスクまたは挿管)
- 継続的な疼痛管理が必要
- チームが設置されていて組織が明確に位置づけられている
周術期管理チーム(術後疼痛、栄養管理、リハビリテーションなど)

患者さんにとって（お願い）

- ・術後の痛みを「がまんしなくていい」時代へ
- ・チームで見守り、つらさを減らす
- ・安心してリハビリや日常生活に戻れるよう支援

● せめて「痛い」と言いやすい医療環境を目指していきます

当地域の麻酔科医の現状

都道府県別麻酔科医比率は47都道府県中41位



「都道府県別統計とランキングで見る県民性」より

県内でも偏在性がある

【当院に麻酔科専門研修プログラムがない場合】

初期研修医（当院）
↓
他院の専攻医（例：大学病院）
↓
大学医局に所属（人事権は大学側）
↓
当院に戻っても大学医局の人事による派遣
× 長期的な当院への定着が困難

【当院に麻酔科専門研修プログラムがある場合】

初期研修医（当院）
↓
当院で専攻医研修（麻酔科専門研修プログラム）
↓
大学病院へ一時的に研修
↓
◎ 当院に戻る／定着（人事権は当院にあり）
↓
◎ 長期的な当院勤務に期待

中東遠総合医療センター麻酔科専門研修プログラムを
2026年度から開始できるよう進めています

4 専攻医の確保・教育研修

麻酔科からの院内外へ情報発信

	項 目	目 標
1	救急蘇生の講習会	院内 ICLSディレクター BLSインストラクター
2	緩和ケア研修会	院内はもちろん院外にも幅を広げる
3	麻酔科 ハンズ・オンセミナー	研修医ばかりでなく上級医へも中心静脈カテーテル 挿入法や気道管理についてともに学んでいく
4	麻酔科専門医の情報共有	麻酔科危機管理マニュアルシートの作成
5	各種専門医取得可能	日本麻酔科学会、日本ペインクリニック学会、 日本緩和医療学会 中東遠総合医療センター麻酔科専門研修プログラム を申請中

決 意

引き続き“手術を受けるなら中東遠”安心して手術を受け
られる体制づくりに努めます

がん診療連携拠点病院指定を果たしました。緩和医療
でも力を発揮します

今年度も特に教育の側面から麻酔科の情報を発信して、
院内外に麻酔科の存在をアピールします



令和7年度 診療科目目標発表

リハビリテーション科 Department of Rehabilitation Medicine

217



リハビリテーション科



	氏 名	役 職
1	渡邊 浩司	部長（診療科長）
2	勝山 貴博	専攻医・医員
3	内藤 隆行	専攻医・医員 非常勤医師

218



リハビリテーション科

令和7年度 目標

1 診療目標

項 目	R2	R3	R4	R5	R6	R7目標
入院患者数（人／月）	0	0.2	0.8	1.3	1.7	2.0
外来患者数（人／月）	129	784	860	1,100	1,217	1,300
ボツリヌス治療件数	0	84	138	181	247	400
心肺運動負荷試験	0	17	75	60	54	140
嚥下造影検査	約100	200	155	146	58	100
嚥下内視鏡検査	0	27	72	60	63	100

219



リハビリテーション科

令和7年度 目標

2 医療の質向上

外来・入院を中心とした診療機能の強化
専門的なリハビリテーション医療の提供

	項 目	目 標
1	適切なリハビリテーション医療の提供	各診療科へリハビリ処方箋の指導 業務移行
2	専門外来の拡充と解説	歩行・装具専門外来の新規設定 自動車運転評価外来の拡充
3	術後合併症の減少と術後入院期間の減少	ICU・救急病棟でのリハ早期介入 ICU・ECUカンファ 周術期リハビリテーションシステムの構築
4	リハビリテーション医療の質の向上	治験の参加 研究・論文作成 リハビリテーションスタッフへの教育と指導
5	災害対策	静岡県JRAT（災害リハビリテーション支援関連 団体協議会）の講習受講スタッフの増加 災害時の対応システムの構築

220

3 経営改善

	項 目	目 標
1	リハビリテーションに関わる業務改革	業務量 週90時間→60時間
2	自費リハビリの導入	自費リハのシステム作り 教育・研究

- ・リハビリ科・リハビリ室の収益は、リハビリ科開設前は3億円でしたが、2024年度6.6億円、2025年度は7.8億円見込みとなっています。
- ・リハビリ収益は、リハ科開設後、大きく黒字となっています。
- ・リハ科の業務量は多く、業務量の削減を行います。
- ・新棟開設までに、超音波エコー検査や筋電図検査を導入し、より専門性の高いリハビリテーション治療を提供していきます。増収する見込みです。

221

4 専攻医の確保・教育研修 初期研修医への指導、専攻医の確保

	項 目	目 標
1	教育体制の強化と研修医の確保	教育体制の強化。 他病院との差別化を図り、研修医の確保につなげる。
2	専攻医への教育を充実	浜松医大・聖隷グループ・東海大学と専攻医プログラムの連携協力病院に認定。

222

当科の特徴

- ・日本リハビリテーション医学会 専門医・指導。
- ・JSPOスポーツドクター。JPSAバラスポーツ医。
- ・様々な領域の専門性の高いリハビリテーション治療を提供できる。またその治療のための入院治療が可能。

様々な専門外来

- ・ボツリヌス治療専門外来（日本トップレベルの治療件数）
- ・装具・義肢・歩行専門外来（バギー、車いす、装具の作成希望を受け入れます）
- ・自動車運転再開の評価外来
- ・リンパ浮腫外来
- ・書類外来（身体障害者手帳、障害年金手帳、精神保健手帳など）
- ・嚥下外来：専門性の高い嚥下評価と嚥下リハビリテーションの提供。

223

リンパ浮腫外来

- ・専門的なリハビリテーション治療を行うリンパ浮腫チームが対応します。
- ・県内初リンパ浮腫のリンパドレナージのためのリハビリテーション入院治療ができる。
- ・また患者一人一人に合った弾性着衣が試着でき、最適な弾性着衣を提供します
- ・県内初、リンパシンチグラフィーを行い、適切に評価し、最適なリハビリテーション治療を提供できる。



224



決 意

地域住民の方が、可能な限り住み慣れた環境で
口から食べ、自分で歩き、
生きがいを持って日常生活を送れるよう、
全力でサポートします。

あらゆる疾患に対する質の高いリハビリテーション医療を提供し
地域医療に貢献します。



令和7年度 診療科目目標発表



病理診断科 Department of Pathology

229

病理診断科



	氏 名	役 職
1	鈴木 大介	部長（診療科長）
2	望月 駿佑	医員（2年目専攻医）

230

病理診断科

令和7年度 目標

1 診療目標

項 目	R2	R3	R4	R5	R6	R7目標
細胞診（件／年）	7,506	7,964	8,150	8,302	8,404	8,500
組織診（件／年）	4,586	5,345	5,729	5,786	5,814	6,000
病理解剖（件／年）	12	11	12	10	11	15

231

病理診断科

令和7年度 目標

2 医療の質向上

病理診断件数の維持・増加
CGP検査への注力

	項 目	目 標
1	病理診断件数の維持・増加	細胞診 8,500件/年 組織診 6,000件/年
2	病理解剖件数・臨床病理検討会回数（CPC）の維持・増加	病理解剖15件/年 CPC 7回/年
3	がんゲノムプロファイリング検査（CGP）によるエキスパートパネルへの参加	当院でもCGP検査施行可能となったことで、その手助けにより質向上に努めたい

232

3 経営改善



←手術材料（大腸）の切り出しをする病理医の図

	項 目	目 標
1	診断に要する標本数削減	すでになんかなり削減しているが、診断の質を下げずに、標本数を減らしたい（手術材料における病理医の切り出し標本数など）。
2	コスト（保険点数）の取得推進	Ventana社の染色装置などを導入することにより、今後のコスト取得やTAT（turn around time）の短縮を目指したい。

233

コスト削減→概算も出してみました

2025/2/27 院内ヒアリング提示資料（病理診断科）（一部抜粋）

<省くことに成功した主な慣習>

・経尿道的膀胱切除（TUR）検体における免疫染色の省略（CK20, p53）

→TUR件数 約 120-240(約 10-20/月)症例/年

上記免疫染色コスト 約 1,000(500 x 2)円/症例

→省略成功免疫染色コスト 約 120,000-240,000円/年

・手術材料毎の標本数省略（無意味な断端や腫瘍周辺組織の標本作製省略）

→年間手術検体数 約1,200-1,600(100-150/月)件

→省略前平均標本作製数10-20枚/症例→現在5-10枚/症例

→省略枚数 約6,000-16,000枚/年（手術症例）

→標本作製省略時間(1枚約5分, トリミング・ブロック作製・パラフィン包埋・標本薄切・染色などの工程)
約30,000-90,000分(約500-1500時間)/年

・・・（様々省略）

合計...標本作製省略時間 約 515-1,525時間/年（標本作製に掛かるコストも低下）

省略コスト（主に免疫染色） 約 310,000-615,000円/年（人件費は含まず）

234

4 専攻医の確保・教育研修

まず病理の重要性について知ってもらう

	項 目	目 標
1	病理に理解ある医師の育成	病理診断科を研修する 研修医数 3人/年
2	病理と臨床の関連性への 理解向上	臨床病理検討会（CPC） 7 回/年

235

決 意

各科医師と協力して適切な病理診断を行うことでもたらされる診療の質向上が、患者さんの満足に繋がると考えます。上記を念頭に日々努力を重ねていきたいと思ひます。

236



令和7年度 診療科目目標発表



歯科口腔外科 Oral and Maxillofacial Surgery

237



歯科口腔外科



	氏 名	役 職
1	夫 才成	診療部長
2	荻須 宏太	部長
3	太田 優也	医長
4	鈴木 秀祐	医員
5	小野 未乃梨	非常勤歯科医
6	桑原 良英	研修医

238



歯科口腔外科

令和7年度 目標

1 診療目標

項 目	R2	R3	R4	R5	R6	R7目標
1日あたり入院患者数（人）	4.6	5.0	5.1	6.2	6.2	8.0
新入院患者数（人／月）	55	56	61	68	71	73
手術件数（件／月）	24	28	29	33	31	32
外来初診患者数（人／月）	221	195	222	236	246	247
紹介患者数（人／月）	186	178	183	198	198	199
逆紹介患者数（人／月）	136	146	160	165	164	165

2 医療の質向上

項 目	目 標
1 オーラルフレイル予防の啓発	・ 第3回しずおか 口腔ケアフォーラム の主催
2 周術期口腔機能管理の出張講義	・ 依頼元の口腔リテラシーの向上
3 新人教育	・ 4人の新人職員（歯科医師、歯科衛生士）の知識、技術の向上

239



歯科口腔外科

令和7年度 目標

3 経営改善

項 目	目 標
1 口腔ケアフォーラム の主催	準備活動を通じた病院職員の 口腔リテラシーの向上
2 フォーラムを通じた啓発活動	地域市民の 口腔リテラシーの向上と受診の行動変容
3 人間ドックの新規開始	口腔機能低下（オーラルフレイル）の早期発見

4 専攻医の確保・教育研修

項 目	目 標
1 研修医の勉強会	・ 麻酔研修の準備 ・ 有病者の周術期管理
2 各学会の指導医、専門医取得に向けて	・ 経験症例の蓄積 ・ 抄読会、地域連携カンファ、学会報告 ・ 学会誌および院内誌への論文投稿
3 各学会の認定歯科衛生士の取得に向けて	・ 学会参加 ・ 学会発表
4 口腔ケアフォーラム の準備	・ 知識の整理と技術向上

240

平均寿命と健康寿命の推移

「健康寿命」：健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間



【資料】平均寿命：平成13・16・19・25・28・令和元年※、厚生労働省「簡易生命表」、平成22年は「完全生命表」

フォーラムの背景と課題設定：
誰もが望むピンピンコロリ

しかし健康寿命と平均寿命の間には、
まだ**10年の開き**がある

健康寿命を伸ばすためには
フレイル（衰え）の予防が必要

フレイルの前に現れるのが
オーラルフレイル（食べる力の衰え）

そこで**オーラルフレイル予防**のために
口腔外科は何をやっているか
皆さんは、どうしたらいいのか
を伝えたい

11月30日 「しずおか口腔ケアフォーラム」の開催決定！！
場所：当院大会議室 13時～15時半

総合テーマ

「生涯現役」を目指す**口腔リテラシー**とは

～**アクティブ**に活躍する**シニア**のための
今から始める**フレイル予防**～

夫才成

放っておくとキケン！放置することによって失われる食べるチカラ

- ・抜かなければならない「**親知らず**」を放置すると、どうなる？
- ・**歯の欠損**を放っておいて大丈夫？
- ・**がん**の発見が遅れてしまったら？

親知らずの放置はキケン？

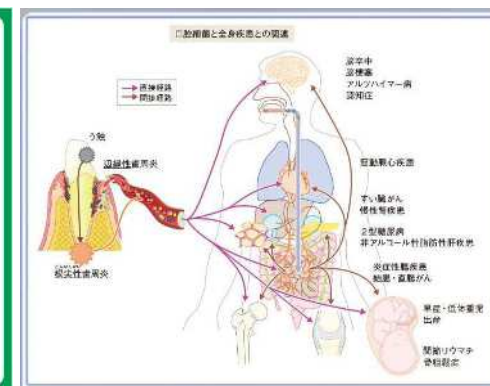
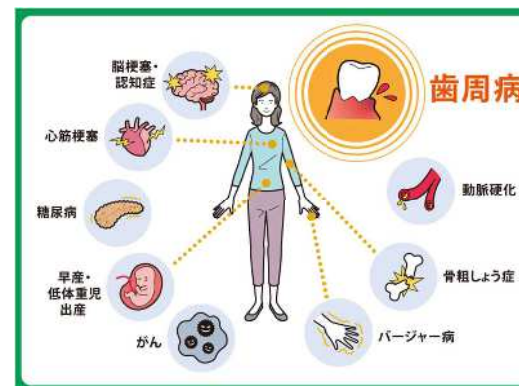
歯の欠損 → 認知機能の低下



荻須宏太

口とカラダの深い関係

～がん、糖尿病、認知症、心筋梗塞など～



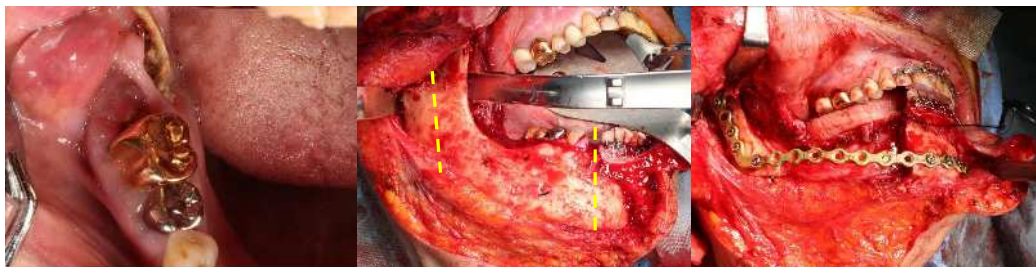


太田優也

“アゴが腐る”薬剤関連顎骨壊死を知っていますか？

～その恐ろしさと今からできる予防法～

なぜそんなことが起きるのか、起きてしまうとどうなるか
どんな人に起きやすく、どうすれば防げるのか



245



天野香世子（栄養室長）

オーラルフレイルと栄養の話

～よく噛んでおいしく食べる！それが生涯現役のチカラ～

<アイスブレイク>
加藤匠（理学療法士）

生涯現役を目指す姿勢と筋トレ

～これができるは大丈夫！自宅のできる筋力診断と”貯筋”

246



フレイル研究の飯島勝矢氏のメッセージ

フレイル予防は「医療職だけが頑張る」では足りない

多職種の協働が不可欠

（行政、スポーツイベント企画者、運動トレーナー、飲食店、金融、農業、建築 etc.）

「街づくり」が重要で地域に「生きがい」をつくるのがカギ



元日本医師会会長の横倉義武氏のメッセージ

健康寿命を75歳まで延ばし、シニアの方も活躍できれば
労働人口の比率は2040年まで現在と同等を維持できる

つまり、少子高齢化に起因するわが国の労働人口の減少は、
健康寿命の延伸によって解決できる可能性がある

247



重症患者を受け入れ高度医療を提供することは重要な役割

同時にフレイル予防を地域のキーワードに
皆さんと、未病を目指したい



フレイルの一手手前がオーラルフレイル

本格的なフレイルになる前に気づき
食べる力を守る、これこそが未病につながる

オーラルフレイルの早期発見のために
オーラルフレイル健診を人間ドックに新規導入へ

248



決意

診療科ミッション：患者さんを笑顔で帰す

口腔リテラシーを高めて
アクティブなシニアで溢れる地域を目指すために
口腔外科ができることを模索する

令和7年度 診療科目目標発表

救急科・集中治療科

Emergency and Critical Care Medicine

中東遠地域の命の砦
日本屈指の専門チームが未来を拓く

私たちの覚悟

「安心して、いつまでも自分らしく暮らせる未来」へ

令和6年度救命救急センター充実段階評価

4位

救急救命士の活躍

559件 (令和6年度)



私たちの3つの約束



持続可能な医療体制
地域全体の安心

「人」への投資

- 1 救急救命士の最大限の活用
休日・夜間の受け入れ強化
職種の垣根を超えたタスクシェア
- 2 人材育成
研修医・専攻医の育成（専門医プログラム基幹施設認定）
特定行為看護師の育成

強靱な医療インフラ整備とDXモデル化

3 圧倒的機能強化

救命救急センターと集中治療室の再整備

収益性向上

加算取得率の向上

DXモデル化

Google Workspaceの活用

AIの利用推進



中東遠地区の医療安全保障





令和7年度 診療科目目標発表



企業長兼院長 President & Director

265



企業長兼院長

2024年度の取り組みの結果(1)

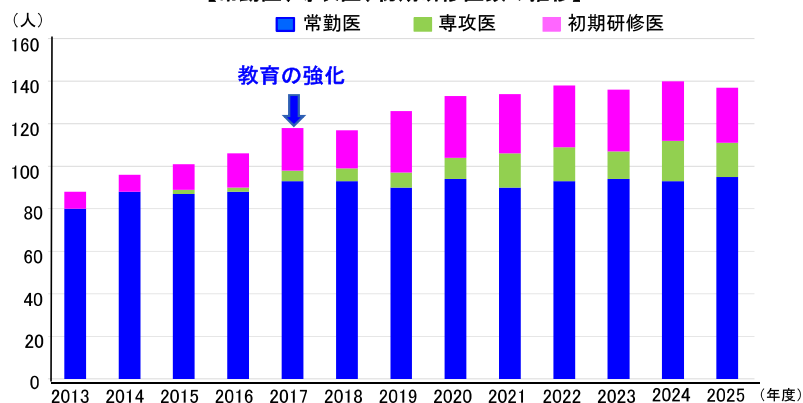
<医師確保について>

目 標	評価	内 容
常勤医師数の増員・確保	XXX ◎ ○ ○ ○ X X ○	呼吸器内科医の著減(5→1人) 精神科常勤医誕生(当院育ち) 消化器内科医1人増加 放射線診断科医1人増加 総合内科医1人退職 血液内科医欠員のまま 専攻医4人増加 (内科2人、泌尿器科1人、耳鼻科1人)
心臓外科医の開設	△	未定(交渉中)

266

病院が生き残るためには教育が大事:医師を育て増やす

【常勤医、専攻医、初期研修医数の推移】

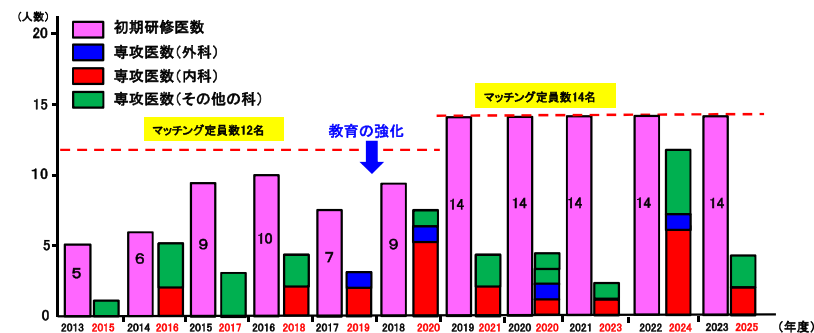


開院時から医師数は49人増加しているが、常勤医数の増加は15人に留まる。初期研修医、専攻医の増加で医師数が増加した。しかし派遣医師の減少により縮小された診療科は少なくない。

病院が生き残るためには教育が大事:医師を育て増やす

【当院で研修することを希望する医学生数の変化】

諦めないで専攻医を増やす工夫を:専攻医基幹プログラムの増加
内科のみ ⇒ 内科、皮膚科、救急科、整形外科、麻酔科(2026年度)(外科、小児科)



2018年度から5年間で外科に4名(女医3名)の専攻医が入局。専攻医教育体制を強化することで内科専攻医の5人をはじめ、14人中12人が専攻医として当院に残った。

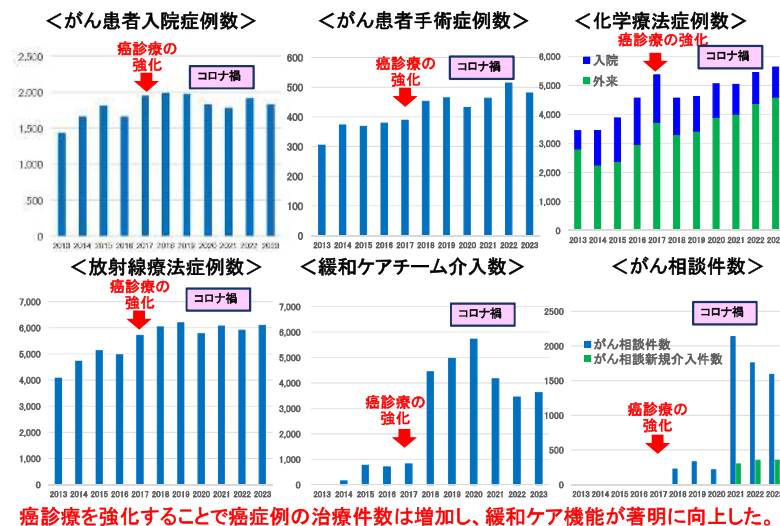
2024年度の取り組みの結果(2)

<癌診療、救急医療について>

目 標	評価	内 容
癌診療の充実	◎	がん拠点病院指定獲得
	◎	がんゲノム医療連携病院に指定
	○	癌関連手術の増加
	○	外来化学療法室稼働増加
	○	放射線治療数の増加
	○	緩和ケアチーム新規介入件数増加
	○	当院でドック後精査者の対応増加
救急医療の維持、向上	X	救急医数の減少:5→3人
	◎	救急救命士2→5人に増加
	○	→当院独自でドクターカー運用可能
	○	ドクターカーの出動件数増加
	○	救急搬送件数の増加:6969→7346件

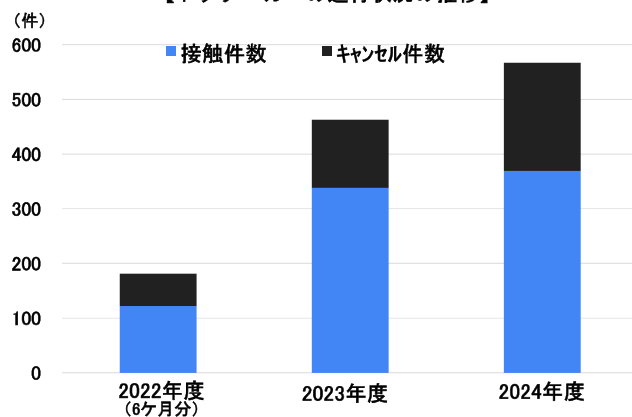
269

【がん治療件数の推移】



病院統合を行うことで地域の救急医療に役立てた

【ドクターカーの運行状況の推移】



要請数が増え、接触件数も増加し、現場、または現場近くで医師が早期に救急対応できる機会が増えた。

271

2024年度の取り組みの結果(3)

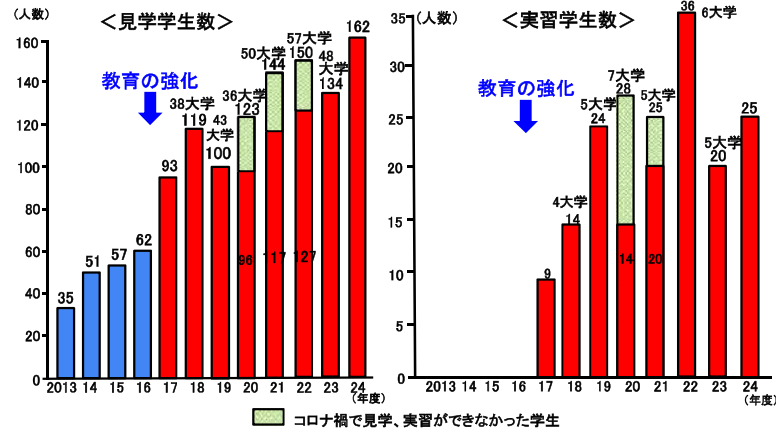
<教育について>

目 標	評価	内 容
教育の強化 (5年間継続強化の効果)	○	2週間以上の実習学生数の増加(20→25人)
	◎	マッチング希望者数の増加(31→55人)
	○	見学学生数の増加(134→162)
	XX	→フルマッチできず →戦略の再考
大学との連携強化	○	6大学との実習教育の連携
	○	名古屋大学との共同研究増加
	◎	浜松医大の放射線診療・治療・教育のサポート
	○	治験件数の増加

272

病院が生き残るためには教育が大事:医師を育て増やす

【当院を見学・実習する医学生延人数の変化】

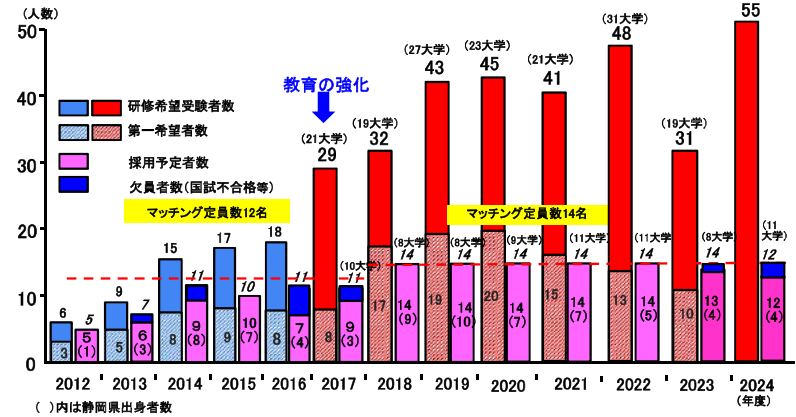


2017年度から医学生への教育を強化し、交通費、滞在費を支給したことで、見学学生、2週間以上の実習学生が著明に増加した。実習では初期研修医と同様な実体験を多くさせる。

273

病院が生き残るためには教育が大事:医師を育て増やす

【当院で研修することを希望する医学生数の変化】



2018年度から5年連続で初期研修医14人枠をフルマッチし、5年連続全員が医師国家試験に合格した。減少していた第一希望者も増加に転じた。しかし2人が国試で不合格となり、欠員が生じた。

企業長兼院長

2024年度の取り組みの結果(4)

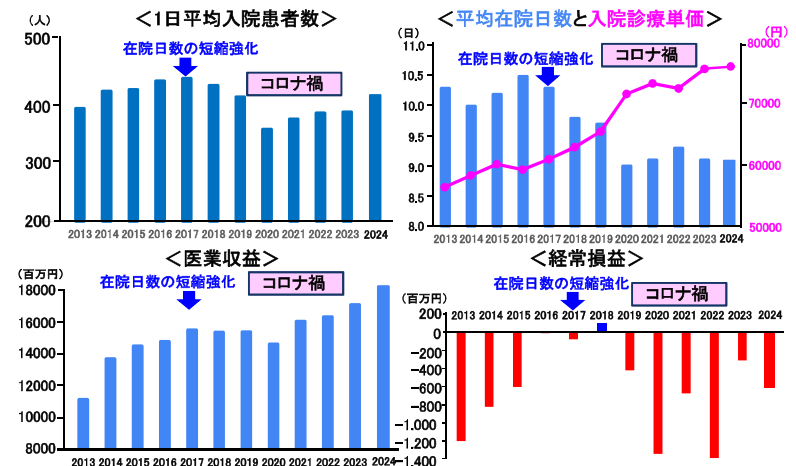
<経営について>

目標	評価	内容
経営の赤字からの脱却	X ↓ XXX	経常損益で赤字が増大 (-3億円代から-5億円代)
支出の削減	X ↓ XXX	光熱費の増額、人件費増で支出増。人事院勧告通りに昇給
入院単価の向上 外来単価の向上	△ ○	76,129円から76,682円にアップ 18,026円から18,501円にアップ
入院稼働率の向上:90%	X→△	77.9%から83.2%にアップ

275

病院経営を黒字にすること

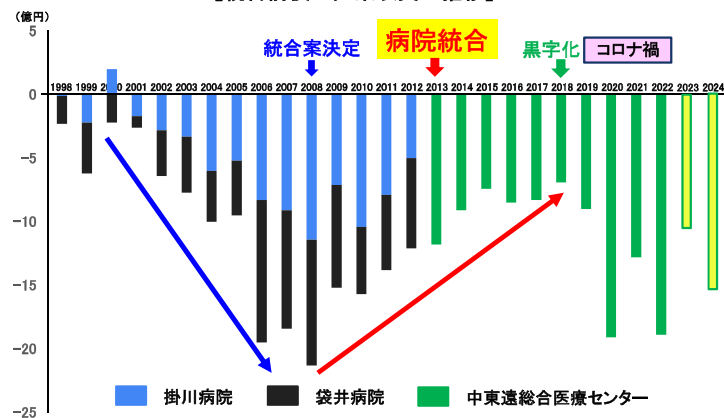
【開院後の医療業績の推移】



開院後入院患者が増加した。業務を効率化し、在院日数を短縮したことで入院診療単価が高くなり、医業収益の減少幅を少なくできた。コロナ禍でも病床の対応ができた。

病院経営を再び黒字にすること

【統合前後の医業収支の推移】



2病院が統合することで医業損益は1/3ほどに減少した。医療内容が向上し、さらに黒字化した時のような医業収支であれば、建築費222億円を16年で償却できる。しかしコロナ禍で収益は悪化した。

277

2025年度 運営目標

1 地域医療への貢献

- 1) 医師充足への一定の道筋を付ける
(総合診療科、呼吸器内科、糖尿病・内分泌内科、血液・腫瘍内科、心臓血管外科)
- 2) がん診療連携拠点病院として更なるがん診療機能の向上を図る
 - ・がん登録件数を1,300件/年以上とする
 - ・悪性腫瘍の手術件数を750件/年以上とする
 - ・がんに係る薬物療法の患者数を1,400件/年以上とする
 - ・放射線治療の患者数を350件/年以上とする
 - ・緩和ケアチーム新規介入件数を250件/年以上とする
 - ・がん遺伝子パネル検査の実施件数を10件/年以上とする
- 3) 1日当たりの入院患者を430人以上とする
- 4) 1月当たりのECU稼働率を95%以上(14床稼働)とする
- 5) 手術件数(手術室内)を6,600件/年(550件/月)以上とする
 - ・全身麻酔件数を2,500件/年以上とする
 - ・緊急全身麻酔件数を350件/年以上とする
- 6) 手術件数(血管造影室内)を1,200件/年(100件/月)以上とする
- 7) 紹介件数を26,000件/年(2,167件/月)以上とする
- 8) 人間ドック・健診センターの受診者数を19,000件/年(80件/日)以上とする
 - ・人間ドック50件/日以上、健康診断・協会けんぽ30件/日以上とする
 - ・がんに関連する要精密検査(D判定)対象者の受診率を80%以上とする
- 9) 病院機能評価の認定(更新)を受ける
- 10) 院内PHSのスマートフォン化を進め、円滑な情報共有と業務効率の向上に活用する
- 11) ペーパーレス化を推進し、紙の使用枚数を2024年度比10%削減する
- 12) 将来に向けた病院整備計画を確実に推進する
- 13) 経常収支を1億円の黒字にする

2025年度 運営目標

2 誇りと働きがいを持つ病院の創造

- 1) 入院の患者満足度を4.50以上とする
- 2) 外来の患者満足度を4.10以上とする
- 3) 外来患者の診察待ち時間1時間以内の割合を85%以上とする
- 4) 外来患者の会計待ち時間10分以内の割合を85%以上とする
- 5) ハラスメントを撲滅し、心理的安全性を高めることで、働きやすい職場環境をつくる
 - ・職員意識調査の「意欲度」を68.5以上、「満足度」を66.5以上、「上司との関係性」を68.5以上、「職員同士のコミュニケーション」を66.5以上とする
- 6) すべての職員の時間外勤務を月60時間以下とする
- 7) すべての職員が年次有給休暇を5日以上確実に取得し、リフレッシュ休暇7日を取得する
- 8) すべての職員にポータルサイトの更なる普及を図る

3 日本トップクラスの臨床研修病院を目指す

- 1) 優秀な初期研修医のフルマッチを継続する
- 2) 当院で研修する専攻医を7人以上確保する
- 3) 初期研修及び専門研修における魅力的な研修プログラムを再構築する
- 4) 専門医制度基幹施設となる領域数を4領域に増やす
- 5) すべての職種において教育プログラムを作成・実践し、体系的な人材育成を図る
- 6) すべての職種において有資格者を増加させる
 - ・Sランク1人、Aランク4人、Bランク6人増加させる
- 7) 病理解剖を上半期6件、下半期6件以上実施する



中期目標(2025～2029)

1 地域医療への貢献

- 1) 全科の医師を充足させる
- 2) 救急医療をオール中東で支える
- 3) 地域がん診療連携拠点病院として地域完結型のがん診療体制の構築に貢献する
- 4) 脳血管疾患及び循環器疾患の拠点としてさらなる体制強化を図る
- 5) 圏域内の機能分担と連携強化を推進し、将来に向けた地域包括ケアシステムの体制構築に貢献する
- 6) トップクラスの間人ドック機能を確立し、病気の予防・早期発見・早期治療に貢献する
- 7) DXの推進とIT、AIの積極的な活用により、診療支援の強化と業務改善を実現する
- 8) スポーツ医療センターの開設を目指す
- 9) 国際病院評価機構(JCI)の認定取得を目指す
- 10) 経常収支の黒字化を達成し持続可能な病院運営を実現する



中期目標(2025～2029)

2 誇りと働きがいを持つ病院の創造

- 1) 市民に愛され信頼される病院になる(患者満足度の向上)
- 2) 職員一人ひとりが接遇力向上の意識を持ち、患者さまに安心と信頼を提供する
- 3) 職員が誇りと働きがいを実感できる環境を創る(職員意欲・満足度の向上)
- 4) 職員間の心理的安全性を高め、組織全体のパフォーマンス向上を図る
- 5) 全ての職種で働き方改革を推進し、A水準を確実に達成する
- 6) 県内屈指の急性期病院として中東遠ブランドを醸成する

3 日本トップクラスの臨床研修病院を目指す

- 1) 優秀な初期研修医のフルマッチを継続的に達成する
- 2) 専攻医(3～5年目の医師)を20名以上にする
- 3) 内科・皮膚科・救急科に加えて、外科・整形外科・小児科・麻酔科の専門研修基幹施設になる
- 4) 全ての職種において教育・研修体制の更なる強化を図り、医療の質向上と専門性の向上を実現する
- 5) 全ての職種において専門資格、認定資格等の有資格者を増やす

今後の当院における計画案

1. 呼吸器内科診療の回復
2. 院内のDX化 ⇒2025年4月から加速
3. 新棟の開設(2027年5月)
⇒最新放射線治療器導入(1階)
リハビリ科の拡充(2階、3階)
先進な人間ドック診療(3階、4階)
4. 救急救命センターの拡充(2028年ごろ)
⇒救急医療圏拡大への備え(人口減にも考慮必要)
5. 心臓外科の開設を目指す
6. 圏域5病院のデータ、電子カルテ情報共有化
7. 自由診療の拡充(ドック診療の拡充)
⇒予防医療の強化(胃癌撲滅、がん早期発見、認知症早期発見、成人病、フレイルの予防など)
⇒行政とともに国保検診率を35から50%までにアップを

企業長兼院長

決意

- ・ファーストペンギンになることを恐れず、改革、改善を推し進めていく。
- ・さらに心理的安全性の高い病院を目指す。
- ・地域社会、地域医療の変化を鋭敏に感じ、周辺の医療圏も支えられるよう、柔軟に対応できる準備を怠らない。
- ・日本トップクラスの教育、臨床医療、臨床研究のできる病院を常に目指す。

